〔研究報告〕

沖縄国際大学人間福祉研究　第6巻　第1号　2007年9月

# 沖縄国際大学卒業生教員アンケート調査結果
# —教職課程の「教育力」と課題—

三　村　和　則

**要旨**

沖縄国際大学卒業の本採用の中学校・高等学校教員のほぼ全員にあたる718人を対象にアンケート調査を実施した。約25％にあたる182人から回答があった。

①校務分掌の経歴、②教員採用年度、③出身高校、④意見・要望（自由記述）が質問内容である。

調査の結果、次のことがわかった。

①校務分掌について、本学卒業教員には生徒会指導と生徒指導・生活指導を担当する教員が相対的に多い。

②卒業後採用されるまでの年数について、教職に関する科目の「履修階梯」を定めた1990年度以降の入学生の平均年数はそれ以前の入学生より短くなっている。

③出身高校について、特定の高校の出身者が相対的に多く教員になっているという傾向は見られなかった。

④高校生を指導できる教科専門教養の形成が課題となっている。

⑤教育実習生の中に沖縄国際大学生ということで自信過剰になっている者が出ている。

キーワード：教職課程、卒業生、校務分掌、出身高校

## 1．アンケートの趣旨・目的・方法

趣旨・目的

このアンケートは文部科学省平成17年度「特色ある大学教育支援プログラム（特色ＧＰ）」に採択された沖縄国際大学（以下、本学）教職課程の取組（取組名称：「教科教育法を主軸にした体系的教育実習指導—教職課程科目の体系的・段階的配列と模擬授業指導を中心とした取組—」）に対する補助金事業の一環として実施したものである。

採択された取組みの詳細は沖縄国際大学ＨＰや文部科学省のHPの他、文部科学省監修『文部科学省　特色ある大学教育支援プログラム事例集』財団法人大学基準協会「特色ある大学教育支援プログラム」実施委員会、2006年２月、252～259頁に掲載されている。

アンケートの中心テーマは主として本学卒業の教員が担当してきた校務の特徴を把握することにより、本学教職課程の「教育力」の特徴を調査することである。

本調査の背景には二つのことがあった。

一つは、本学の「特色GP」申請書には、本学教職課程の取組の有効性のひとつとして「生徒指導・生活指導のできる教員が育っている」ことを掲げ、「これまで900名近い卒業生が実際に教員として採用されている。学校長の評価は、素直であり、生徒指導・生活指導ができるということである。『生徒指導主任』、『生徒相談係』、『中途退学対策係』といった、子どもの自立の過程に寄り添う職務にたずさわる教員が多いようである。」と記載した。

この記述内容は教育実習校との情報交換等から推察されるものであるが、「特色GP」に採択されたに当たりその当否を検証する一定の社会的責務を負ったものと考える。

二つ目は、さかのぼるが、2004（平成16）年11月文部科学省が実施した本学への教員免許課程大学実地視察の際、本学教職課程は多数の教員を輩出する点が高く評価された一方で、今後の更なる質の向上を期待するという趣旨で、卒業生の校務分掌等の特徴を把握してはどうかという助言を受けた。この点からも卒業生の質的把握を行う必要があった。

アンケートでは①校務分掌（担任を含む）の他、②卒業から採用までの年数、③出身高校の特徴や傾向性について把握しようとした。そして集計にあたっては各教科間の比較ができるように努めた。本学教職課程の教育課程の基幹部分は全教科共通であるが教科教育法関係では教科独自の内容や取組の体制がある。また、教員採用状況が教科により異なっている。その意味で教科間の比較には意味がある。

こうした卒業生教員の質的調査は、本学教職課程の「教育力」の特徴や傾向性を把握する自己点検・自己評価作業である。これにより本学教職課程のいっそうの充実と発展の糸口が見出されるものと考える。

### 対象者

沖縄国際大学卒業生教員（本採用者）約900人のうち、送付先の明確な中学校と高等学校勤務者718人を対象にした。

718人の内訳は、男277人（39.6%）、女441人（61.4%）、不明4人（0.6%）。出身学科別に見ると、法学科59人（8.2%）、経済学科45人（6.3%）、商学科77人（10.8%）、国文学科217人（30.0%）、英文学科188人（26.1%）、社会学科95人（13.2%）、短大経済科4人（0.6%）、短大商科2人（0.3%）、短大国文科15人（2.1%）、短大英文科3人（0.4%）、日本文化学科1人（0.1%）、人間福祉学科1人（0.1%）、大学院南島文化専攻1人（0.1%）、不明10人（1.4%）である。

### 方法

アンケート用紙を送付し、回答は匿名とし、返信用封筒での返信とした。アンケート用紙は最後尾に掲載してある。

期間

2006（平成18）年8月17日（送付）～31日（投函締切）

## 2．回答者数と回答者の属性

回答者数

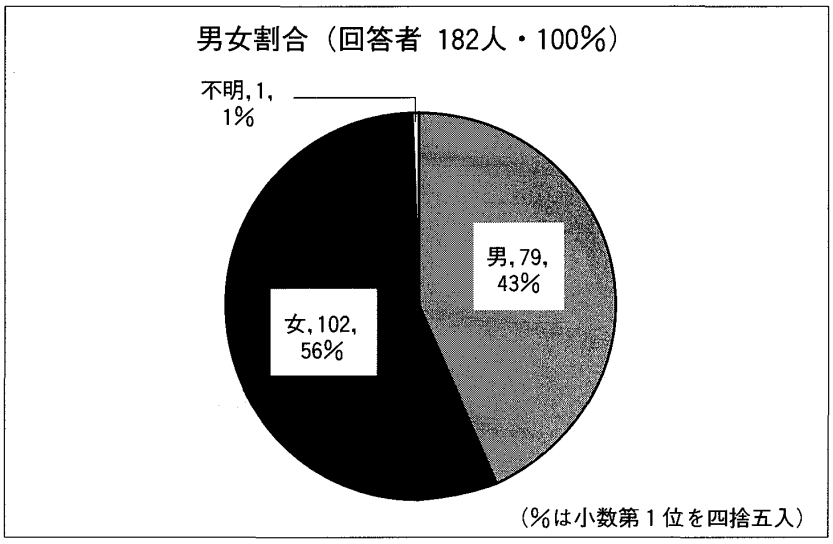
182人より回答があった。回答率25.3%。

卒業学科別にアンケート対象者数と回答者数のそれぞれの全体に占める割合を比較すると次のようになった。法学科8.2%：8.8%、経済学科6.3%：9.3%、商学科10.8%：9.3%、国文学科30.0%：29.7%、英文学科26.1%：24.7%、社会学科13.2%：15.9%、その他5.4%：2.3%である（回答者数の割合については次頁にも掲載）。

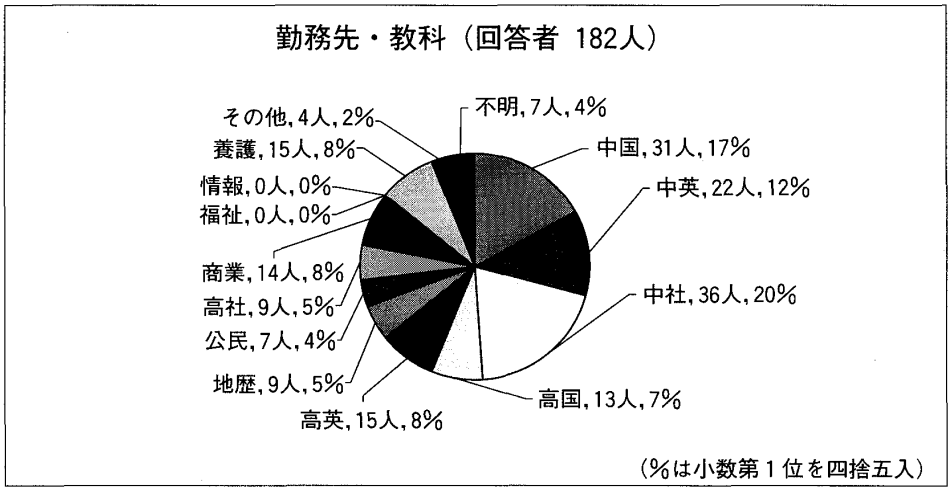
出身学科について見ると、対象者の構成に近似の回答が得られたと言えよう。

回答者の属性

①男女割合

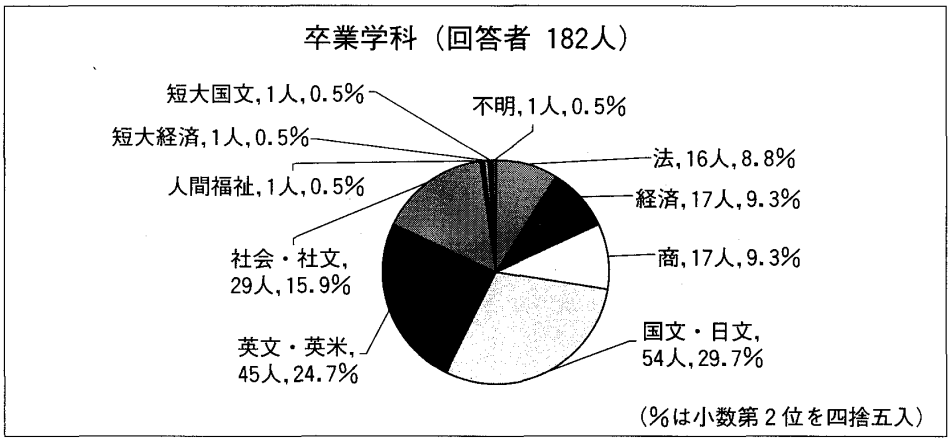


②勤務先・教科



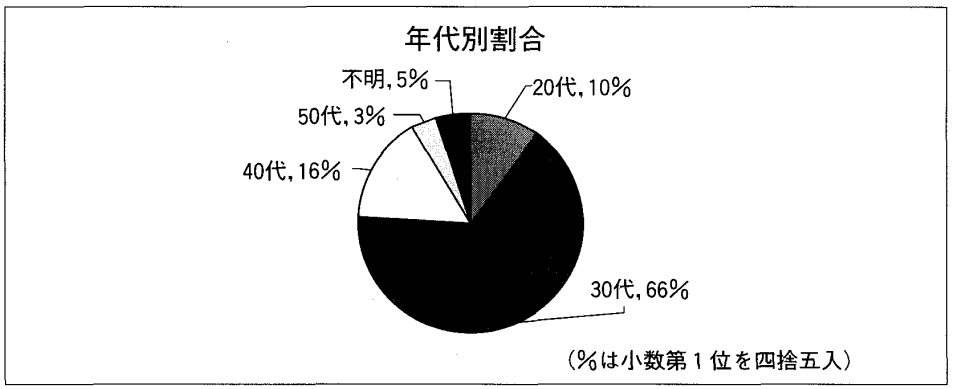

＊（略称の説明）中国＝中学国語、中英＝中学英語、中社＝中学社会、高国＝高校国語、高英＝高校英語、地歴＝地理歴史、高社＝高校社会（以下、同じ。）
＊「その他」は小学校勤務者（誤送付）２人、本学教職課程で取得できない教科１人、実習助手１人である。

③卒業学科

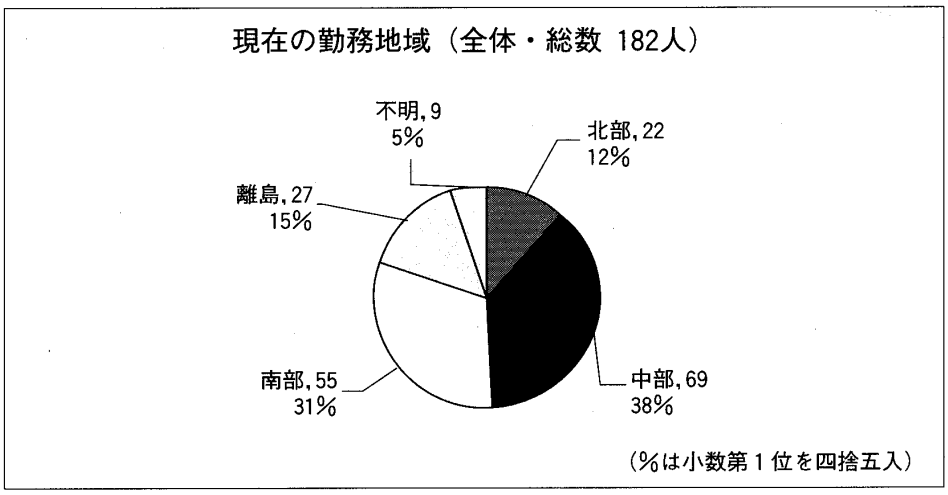



＊（略称の説明）日文＝日本文化、英米＝英米言語文化、社文＝社会文化

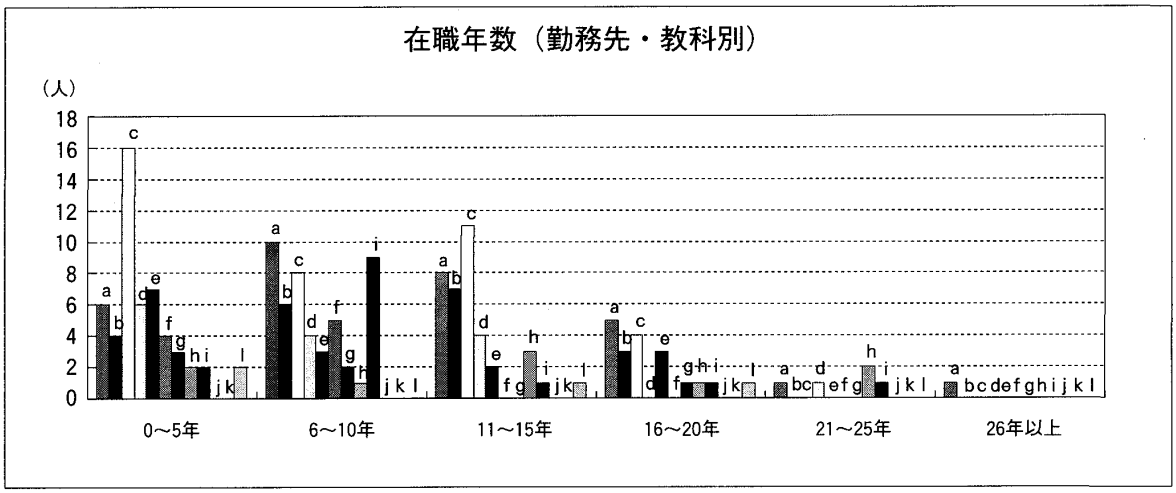
④年代別割合（平均年齢36.1歳）



⑤現在の勤務学校の所在地




⑥在職年数




| a | b | c | d | e | f | g | h | i | j | k | l |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中学国語 | 中学英語 | 中学社会 | 高校国語 | 高校英語 | 地理歴史 | 公民 | 高校社会 | 商業 | 福祉 | 情報 | その他 |

平均在職年数（全体）10年

## 3．結果と考察

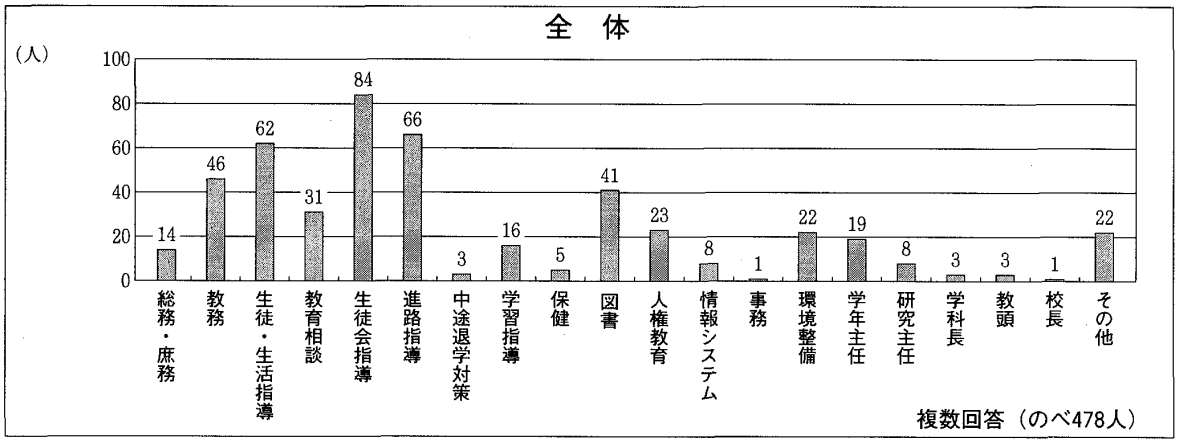
### （1）校務分掌の特徴や傾向

（注）校務分掌のスコアの取り方。

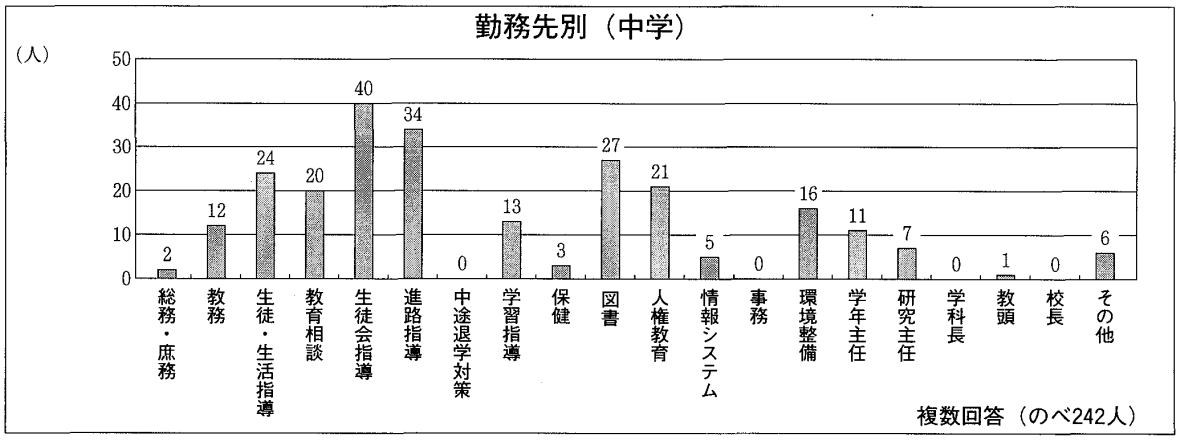
回答者が当該校務を担当したことが1回以上あれば１とカウントした。勤務校ごとや担当年数は無視することとし、例えば１人が３つの勤務校で延べ5年担当したとしても１とカウントした。本学出身者が総体として当該校務をどの程度任されたかの把握には支障はないと判断したからである。

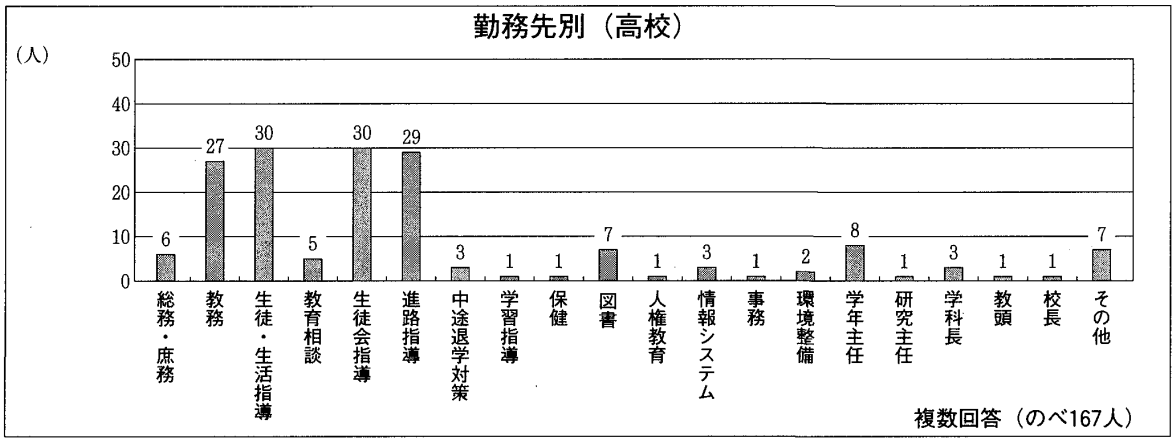
勤務先と教科について、学校種や教科が混在している場合、在職年数の多い方とした。小学校となった場合、「その他」とした。「その他」には本学教職課程で取得できない教科の中学校勤務者１人を含んでいる。小学校勤務者２人、と実習助手１人は除かせていただいた。

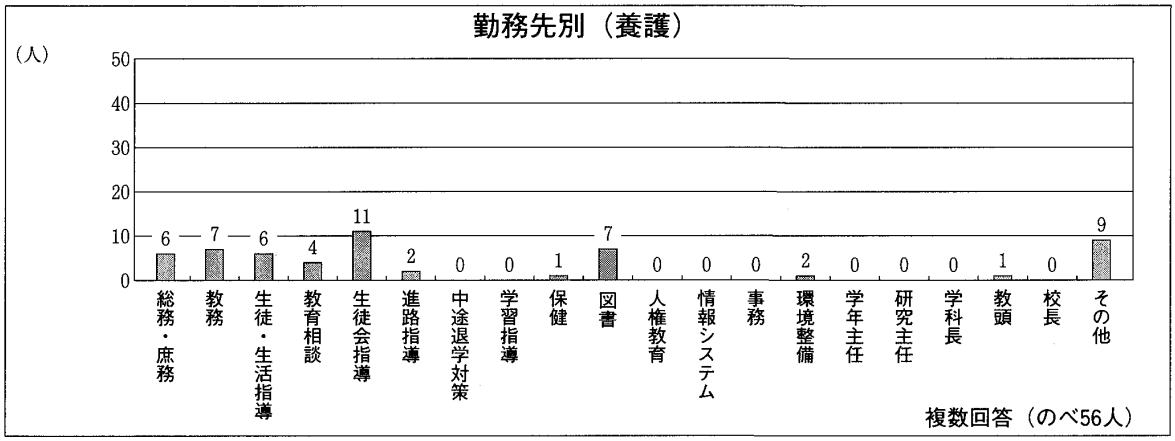
①全体

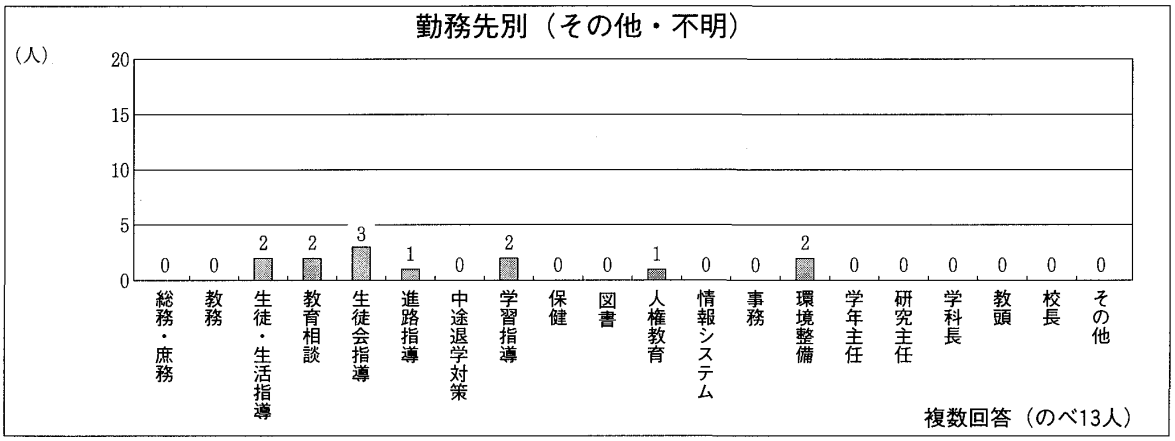


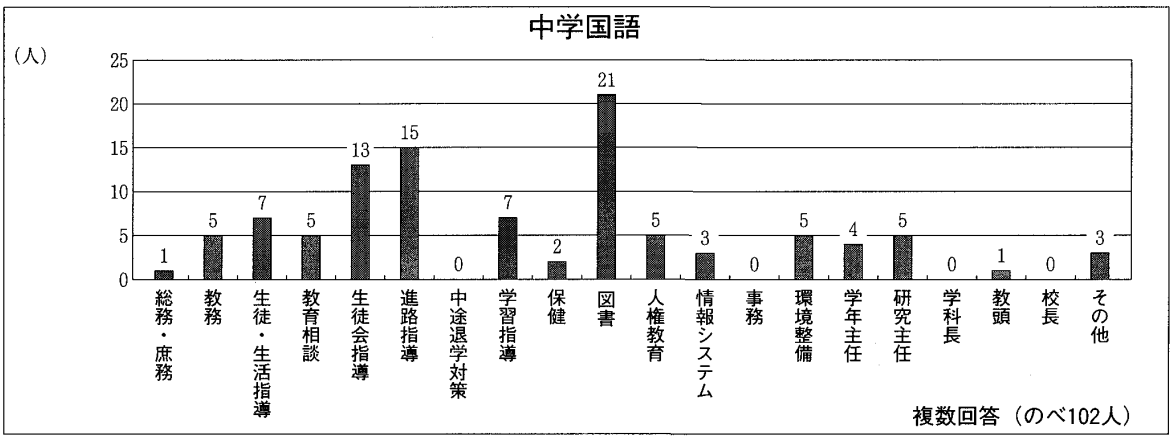

②勤務先・教科別

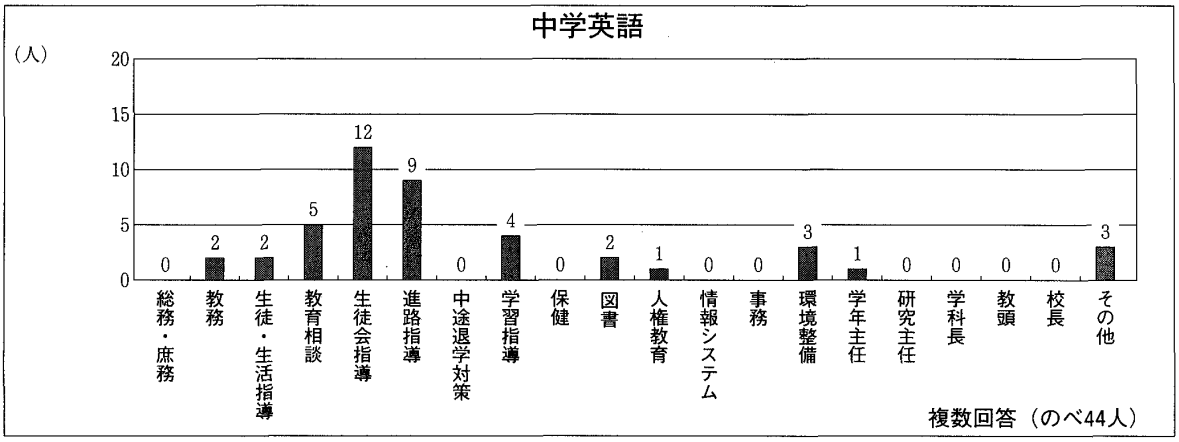


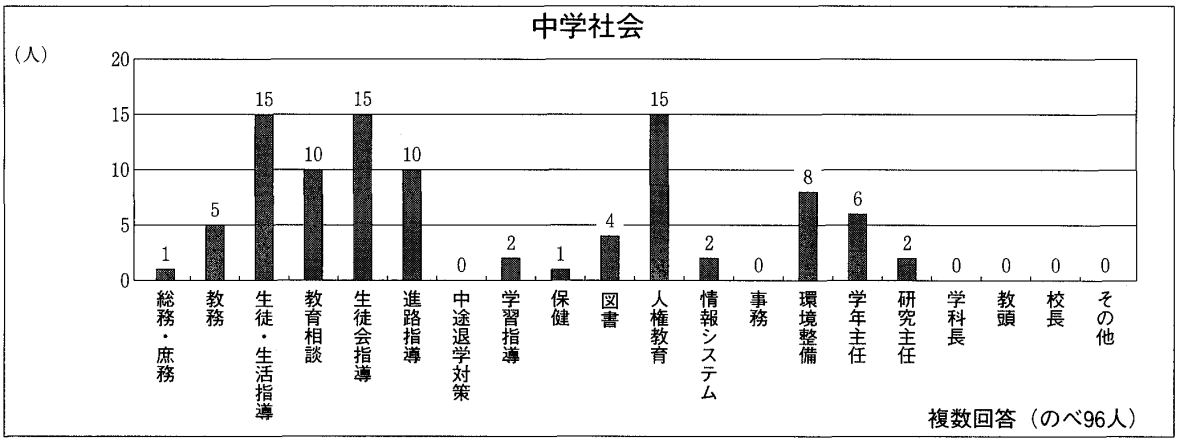

勤務先別（高校）
（人）
50
40
30
20
10
0
6
27
30
5
30
29
3
1
1
7
1
3
1
2
8
1
3
1
1
7
総務・庶務
教務
生徒・生活指導
教育相談
生徒会指導
進路指導
中途退学対策
学習指導
保健
図書
人権教育
情報システム
事務
環境整備
学年主任
研究主任
学科長
教頭
校長
その他
複数回答（のべ167人）

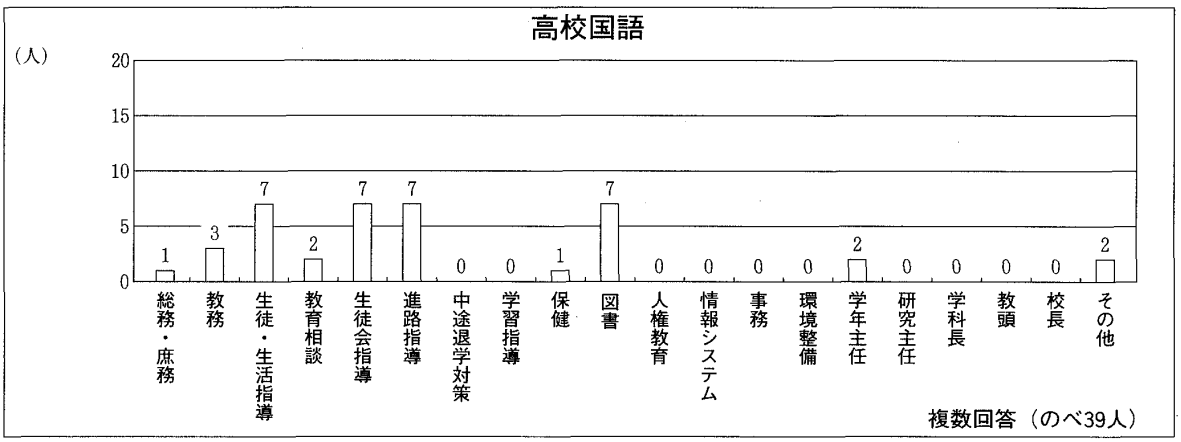

勤務先別（養護）
（人）
50
40
30
20
10
0
6
7
6
4
11
2
0
0
1
7
0
0
0
2
0
0
0
1
0
9
総務・庶務
教務
生徒・生活指導
教育相談
生徒会指導
進路指導
中途退学対策
学習指導
保健
図書
人権教育
情報システム
事務
環境整備
学年主任
研究主任
学科長
教頭
校長
その他
複数回答（のべ56人）

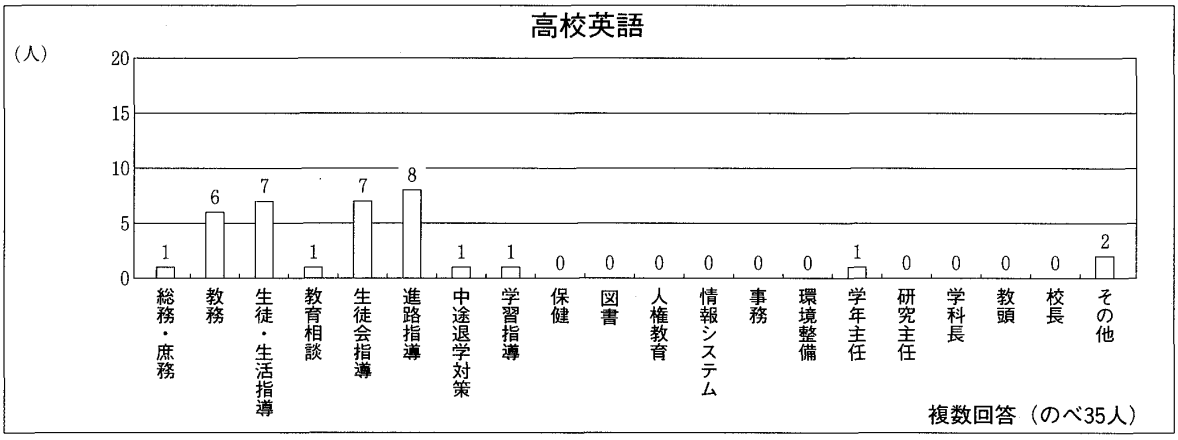

勤務先別（その他・不明）
（人）
20
15
10
5
0
0
0
2
2
3
1
0
2
0
0
1
0
0
2
0
0
0
0
0
0
総務・庶務
教務
生徒・生活指導
教育相談
生徒会指導
進路指導
中途退学対策
学習指導
保健
図書
人権教育
情報システム
事務
環境整備
学年主任
研究主任
学科長
教頭
校長
その他
複数回答（のべ13人）

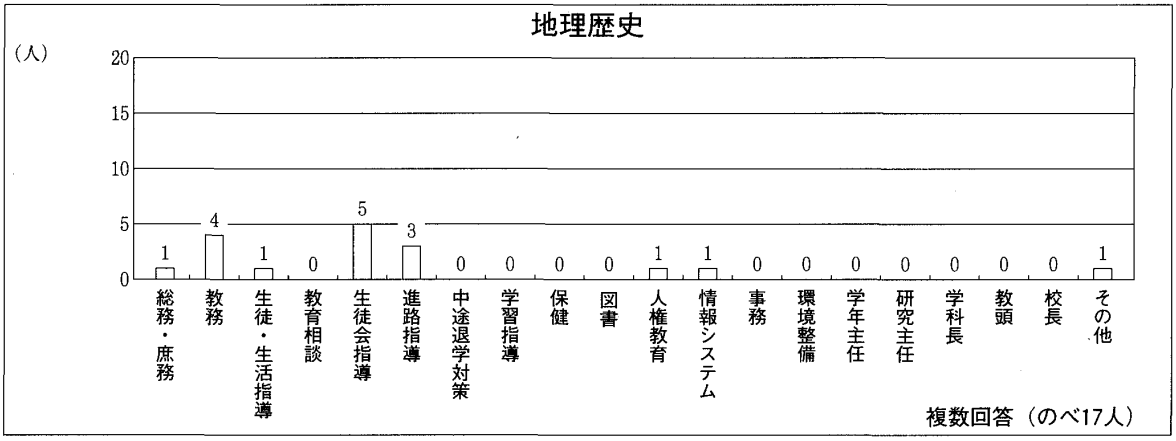

中学国語
（人）
25
20
15
10
5
0
1
5
7
5
13
15
0
7
2
21
5
3
0
5
4
5
0
1
0
3
総務・庶務
教務
生徒・生活指導
教育相談
生徒会指導
進路指導
中途退学対策
学習指導
保健
図書
人権教育
情報システム
事務
環境整備
学年主任
研究主任
学科長
教頭
校長
その他
複数回答（のべ102人）

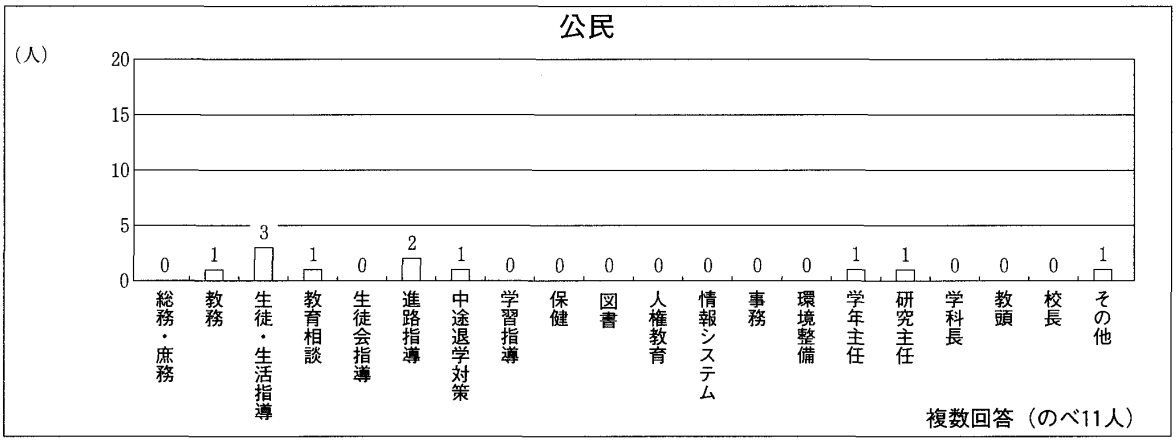

中学英語
(人)
20
15
10
5
0
0
2
2
5
12
9
0
4
0
2
1
0
0
3
1
0
0
0
3
総務・庶務
教務
生徒・生活指導
教育相談
生徒会指導
進路指導
中途退学対策
学習指導
保健
図書
人権教育
情報システム
事務
環境整備
学年主任
研究主任
学科長
教頭
校長
その他
複数回答（のべ44人）

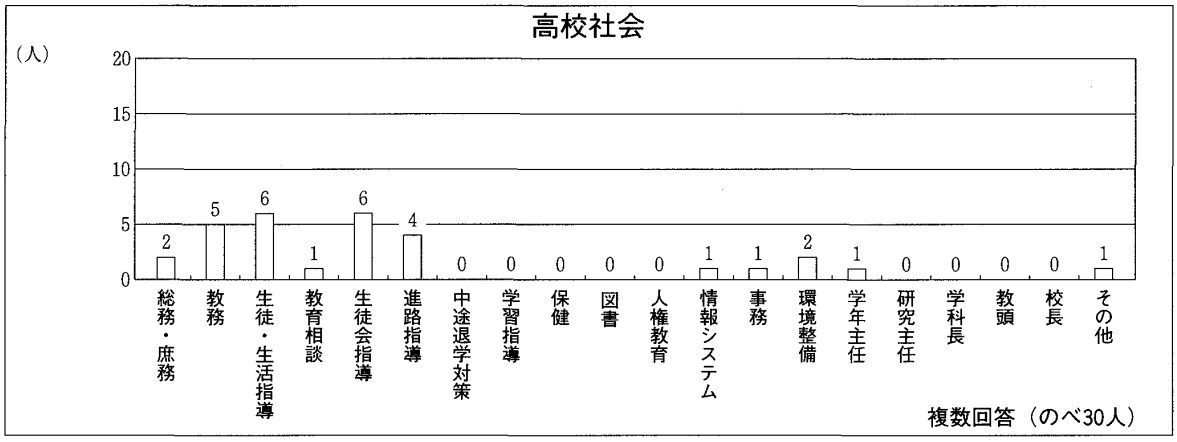

中学社会
(人)
20
15
10
5
0
1
5
15
10
15
10
0
2
1
4
15
2
0
8
6
2
0
0
0
0
総務・庶務
教務
生徒・生活指導
教育相談
生徒会指導
進路指導
中途退学対策
学習指導
保健
図書
人権教育
情報システム
事務
環境整備
学年主任
研究主任
学科長
教頭
校長
その他
複数回答（のべ96人）

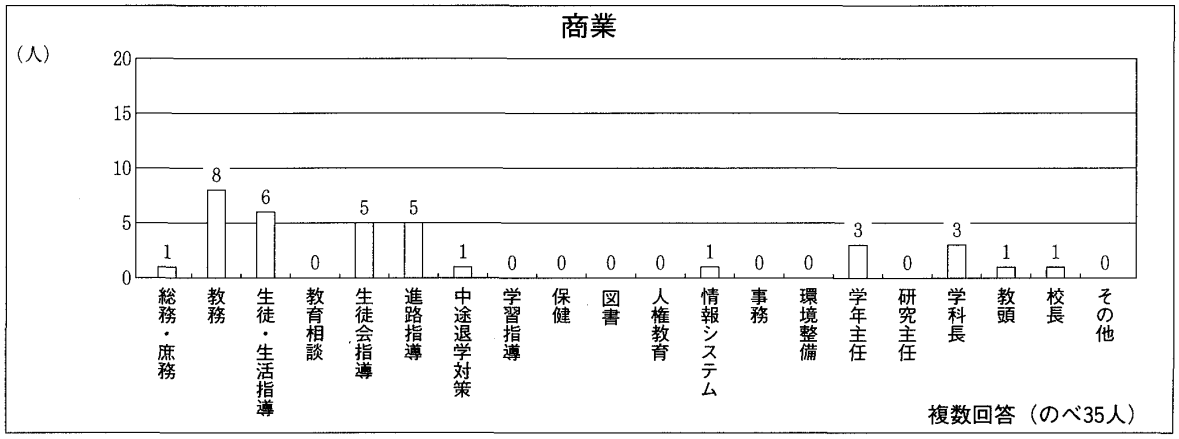

高校国語
(人)
20
15
10
5
0
1
3
7
2
7
7
0
0
1
7
0
0
0
0
2
0
0
0
0
2
総務・庶務
教務
生徒・生活指導
教育相談
生徒会指導
進路指導
中途退学対策
学習指導
保健
図書
人権教育
情報システム
事務
環境整備
学年主任
研究主任
学科長
教頭
校長
その他
複数回答（のべ39人）

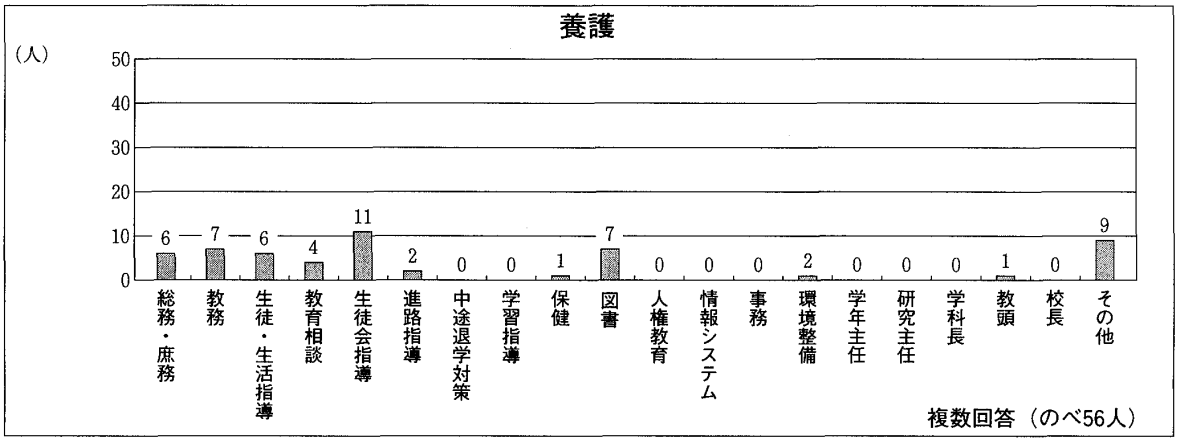

高校英語
(人)
20
15
10
5
0
1
6
7
1
7
8
1
1
0
0
0
0
0
0
1
0
0
0
0
2
総務・庶務
教務
生徒・生活指導
教育相談
生徒会指導
進路指導
中途退学対策
学習指導
保健
図書
人権教育
情報システム
事務
環境整備
学年主任
研究主任
学科長
教頭
校長
その他
複数回答（のべ35人）


地理歴史
(人)
20
15
10
5
0
1 4 1 0 5 3 0 0 0 0 1 1 0 0 0 0 0 0 0 1
総務・庶務
教務
生徒・生活指導
教育相談
生徒会指導
進路指導
中途退学対策
学習指導
保健
図書
人権教育
情報システム
事務
環境整備
学年主任
研究主任
学科長
教頭
校長
その他
複数回答（のべ17人）

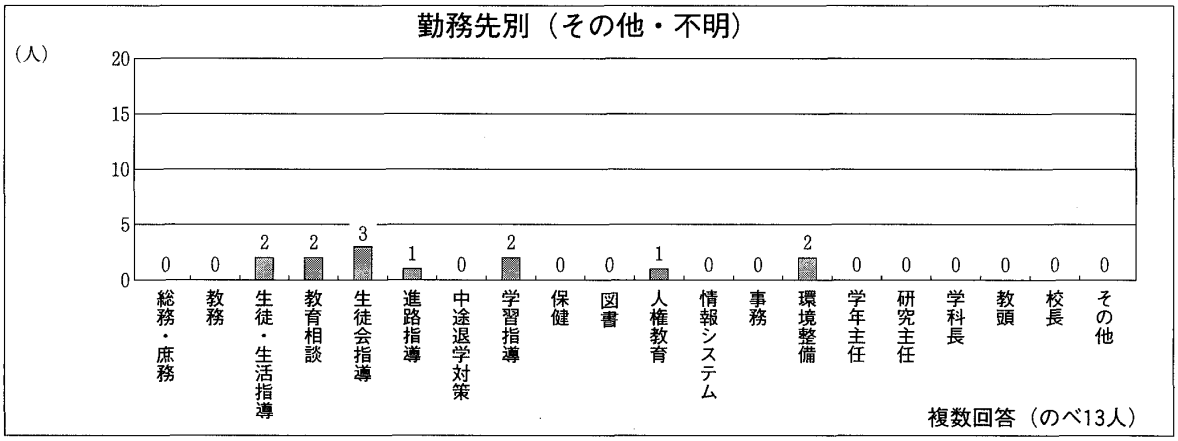

公民
(人)
20
15
10
5
0
0 1 3 1 0 2 1 0 0 0 0 0 0 0 1 1 0 0 0 1
総務・庶務
教務
生徒・生活指導
教育相談
生徒会指導
進路指導
中途退学対策
学習指導
保健
図書
人権教育
情報システム
事務
環境整備
学年主任
研究主任
学科長
教頭
校長
その他
複数回答（のべ11人）


高校社会
(人)
20
15
10
5
0
2 5 6 1 6 4 0 0 0 0 0 1 1 2 1 0 0 0 0 1
総務・庶務
教務
生徒・生活指導
教育相談
生徒会指導
進路指導
中途退学対策
学習指導
保健
図書
人権教育
情報システム
事務
環境整備
学年主任
研究主任
学科長
教頭
校長
その他
複数回答（のべ30人）


商業
(人)
20
15
10
5
0
1 8 6 0 5 5 1 0 0 0 0 1 0 0 3 0 3 1 1 0
総務・庶務
教務
生徒・生活指導
教育相談
生徒会指導
進路指導
中途退学対策
学習指導
保健
図書
人権教育
情報システム
事務
環境整備
学年主任
研究主任
学科長
教頭
校長
その他
複数回答（のべ35人）




（再掲）




（再掲）

**【考察１】**

全体では、第１位と第３位に生徒会指導と生徒指導・生活指導が入っており、「生徒指導・生活指導ができる」という学校現場での評価に対応している。

生徒会指導担当には、生徒と他の教職員とのコミュニケーション力や調整能力、生徒を動かす指導力そして何よりも生徒からの信頼が必要だと言われる。その意味で好んで引き受ける教員は少なく、むしろ敬遠される校務である。それにもかかわらずこの担当経験者が群を抜いて多いことは特筆されることである。

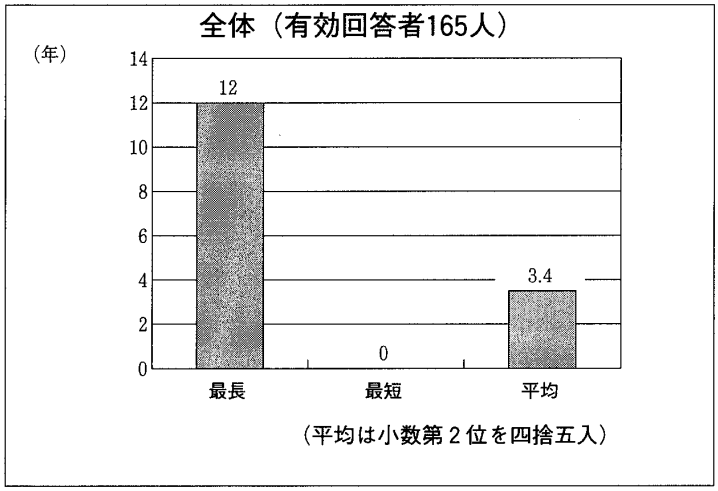
勤務先・教科別では、国語では中学・高校ともに図書が最も多い点が目を引く。中学社会で人権教育が突出している点が注目される。高校の社会、地理歴史や公民には見られない傾向である。

これらは教科の特徴から来るものであるのか、本学出身者の特徴から来るものであるのかは不明である。教科の特徴であるとすれば、教職課程の教育課程で学生に何に目を向けさせるべきかという点で示唆的である。

なお、今回得られた校務分掌のデータについては、他の一般的なデータや他大学での同様のデータとの比較検討が待たれる。

（２）卒業後採用されるまでの年数の特徴や傾向

①最長・最短・平均について、全体




＊卒業年度・採用年度不明：14人。小学校勤務者２人、と実習助手１人は除かせていただいた。

②最長・最短・平均について、勤務先・教科別

| | 中学国語 | 中学英語 | 中学社会 | 高校国語 | 高校英語 | 地理歴史 | 公民 | 高校社会 | 商業 | 養護 | その他・不明 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 29 | 22 | 34 | 13 | 14 | 7 | 6 | 8 | 13 | 13 | 6 |
| 最長年数 | 9 | 11 | 12 | 12 | 8 | 7 | 9 | 8 | 8 | 7 | 8 |
| 最短年数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 平均年数 | 2.7 | 1.6 | 4.9 | 3.2 | 2.9 | 2.7 | 5.2 | 3.9 | 3.9 | 3.5 | 3.7 |

【考察２－（１）】

平均年数に着目した場合、全体の平均年数3.4年と比較したとき、中学英語（1.6年）、中学国語（2.7年）、地理歴史（2.7年）、高校英語（2.9年）の順に早く採用されている。

反対に最も年数がかかっているのは公民（5.2年）で、中学社会（4.9年）、商業（3.9年）、高校社会（3.9年）、高校国語（3.5年）の順である。

本学では「国語、英語は早く、社会は遅い」というイメージがあったが、それにほぼ対応した結果になっている。しかし、社会の中でも地理歴史は比較的早いという意外な結果になっている。また、国語と英語は中学と高校で開きがある。

近年の沖縄県教員候補者選考試験では一次試験では教職教養と一般教養がマーク・シート方式を採用していることから、合否を左右するのは教科専門教養であると言われている。本学では地理学と歴史学の独立した専攻や講座を設けてはいない。地理歴史の結果については

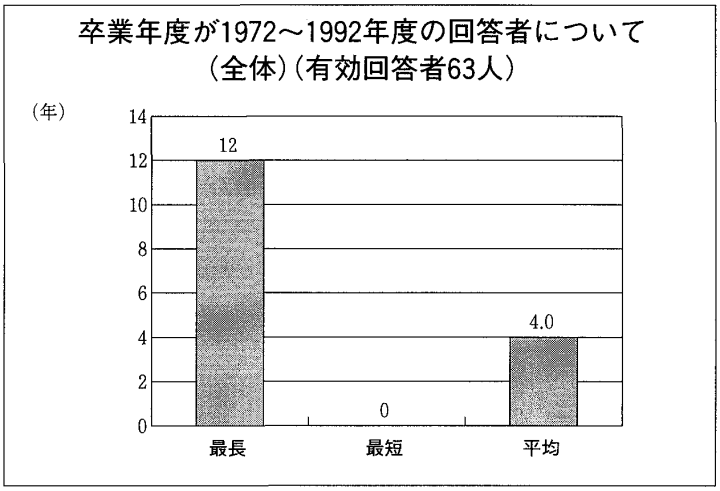
本学の地理学教育と歴史学教育の相対的な質の良さを示唆しているとも言えようが、この結果が何に起因するかは慎重に検証されなければならない。反対に国語と英語の結果についてはどうだろうか。沖縄県の教員採用状況は1995年からの10年間を見ても中学校と高校はほぼ同数である（本学統計。前掲の文部科学省監修『事例集』258頁。）。高校で教授する水準の教科専門教養の形成が課題であることを示唆していると言えるのではないだろうか。

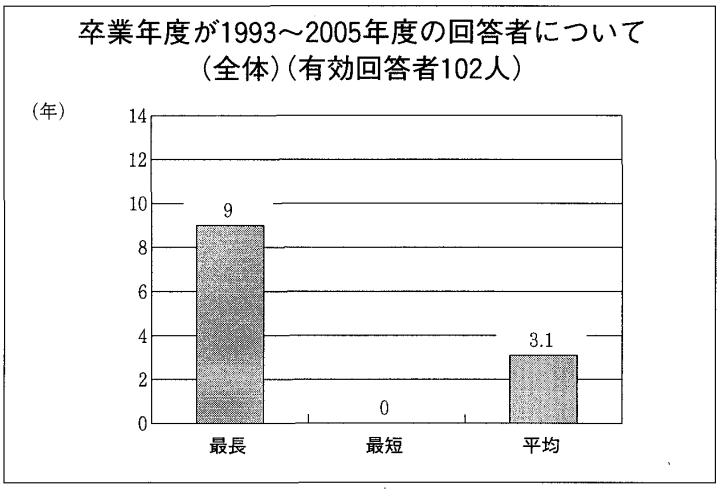
**③卒業年度が１９７２－１９９２年度の回答者と１９９３－２００５年度の回答者の比較**

本学教職課程の特徴の一つは「教職に関する科目」について履修階梯があることである。履修階梯が履修規程上明確になったのは1990年からの教育課程からである。すなわち、「教科教育法」受講の前提として「教育の思想と原則」と「教育心理学」の単位修得が義務付けられたのである。これによって本学教職課程の質の飛躍的な向上があったものと推察される。

そこで、1990年度入学の卒業生が出るのが1993年度であるので、そこを境に比較対照することとした。

**ｉ．最長・最短・平均について、全体**



ⅱ. 最長・最短・平均について、勤務先・教科別

| | 中学国語 | | 中学英語 | | 中学社会 | | 高校国語 | | 高校英語 | | 地理歴史 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 前＊ | 後＊ | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 |
| 回答者数 | 12 | 17 | 7 | 15 | 17 | 17 | 4 | 9 | 6 | 8 | 0 | 7 |
| 最長年数 | 9 | 6 | 12 | 8 | 12 | 7 | 12 | 5 | 8 | 6 | | 7 |
| 最短年数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | | 0 |
| 平均年数 | 3.8 | 1.9 | 1.7 | 1.8 | 5.9 | 3.9 | 4.8 | 2.4 | 2.3 | 3.3 | | 2.7 |

| | 公民 | | 高校社会 | | 商業 | | 養護 | | その他・不明 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 |
| 回答者数 | 0 | 6 | 8 | 0 | 4 | 9 | 5 | 8 | 0 | 6 |
| 最長年数 | | 9 | 8 | | 8 | 7 | 4 | 7 | | 8 |
| 最短年数 | | 3 | 0 | | 2 | 1 | 0 | 0 | | 1 |
| 平均年数 | | 5.2 | 3.9 | | 4.0 | 3.9 | 2.6 | 4.0 | | 3.7 |

＊前：卒業年度が１９７２～１９９２年度の回答者について
　後：卒業年度が１９９３～２００５年度の回答者について

**【考察２－（２）】**

興味深い結果となっている。

全体の平均年数が、1972年度から1992年度の21年間と1993年度から2005年度の13年間を比較すると4.0年から3.1年に短縮している。

平均年数を教科別に見ると、高校英語と養護を除くすべてで最近の13年間のものが短くなっている。地理歴史と公民の合計の平均は3.8年となるのだが、高校社会の3.9年より短くなっている。

なお、本学卒業生の合格者数の実数は、その年度の教員候補者選考試験合格者数についてみると（合格者の卒業年度ではないが）、前の21年間で419人、後の13年間で539人となっており（本学統計。前掲の文部科学省監修『事例集』258頁。）、その数は有効回答者数の差（63人と102人）を一定反映していると言える。

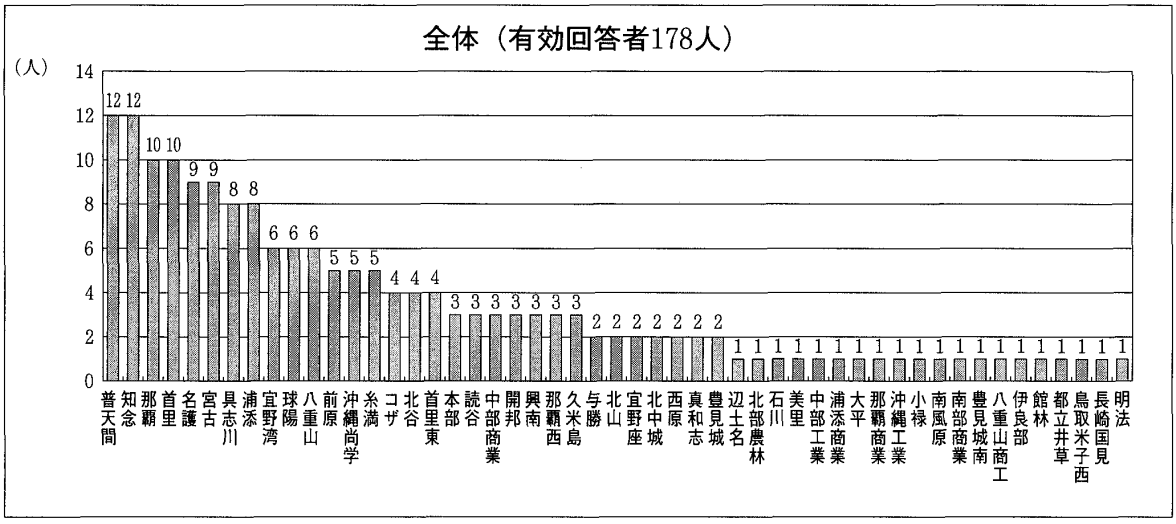
沖縄県における教員需要についての統計資料が存在している。（山崎博敏『教員採用の過去と未来』玉川大学出版部、1998年、183～185頁。）。それによると確かに沖縄県の教員需要

は90年代に入り増加傾向になるが、近年の13年間が前の21年間を上回るということではない。この結果から判断する限り、最近の13年間に本学教職課程は質・量ともに、飛躍的とも言える成果を修めてきたことがわかる。

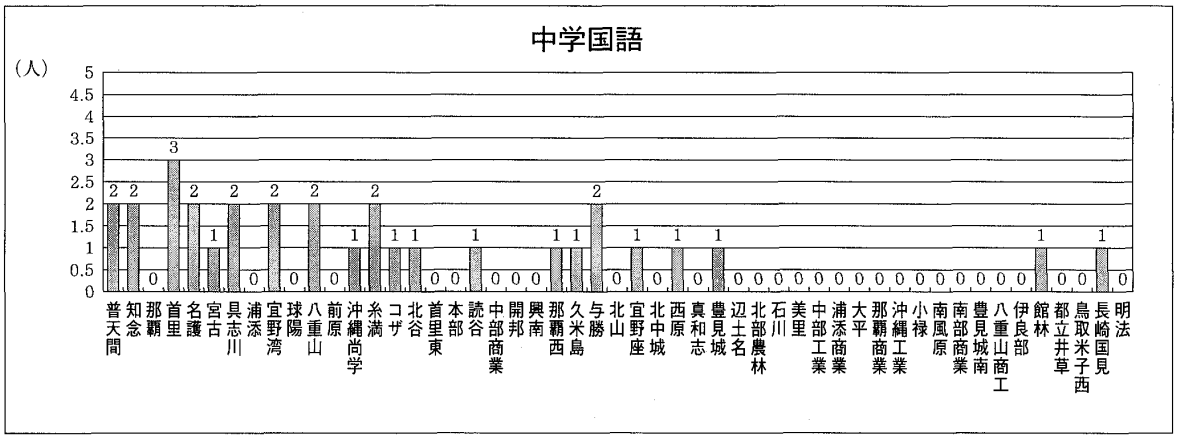
この著しい成果は何に由来するのだろうか。それこそが「特色GP」で評価された、教職に関する科目の「階梯的配列」を始めとする取組の内容なのだと言えるのではないか。すなわち、教職に関する科目の階梯的配列の他、少人数指導で同一教員による通年指導を基本とする教科教育法クラス、一人１時間以上の模擬授業、多様な体験的教育活動、ユニークな教育実習の事中・事後指導、盛んな自主的な正課外活動などである。

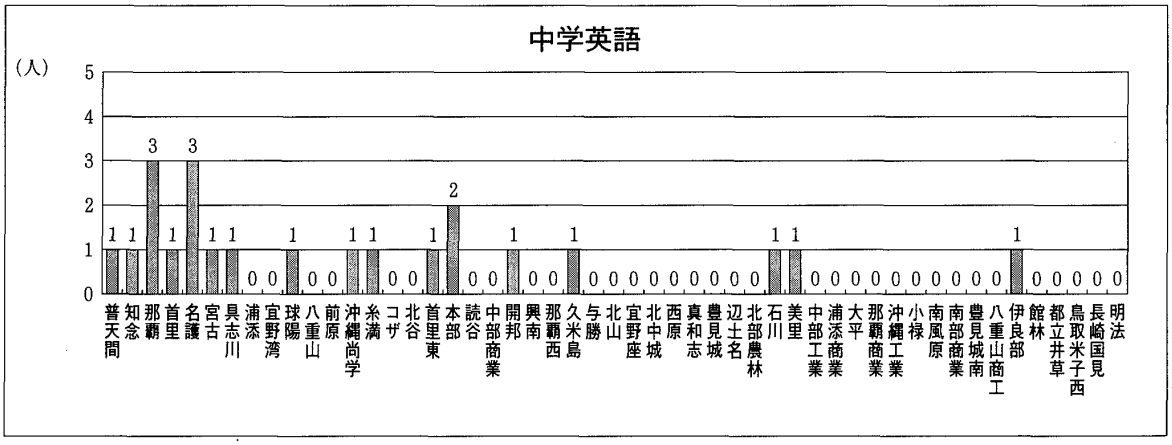
### （３）出身校の傾向や特徴

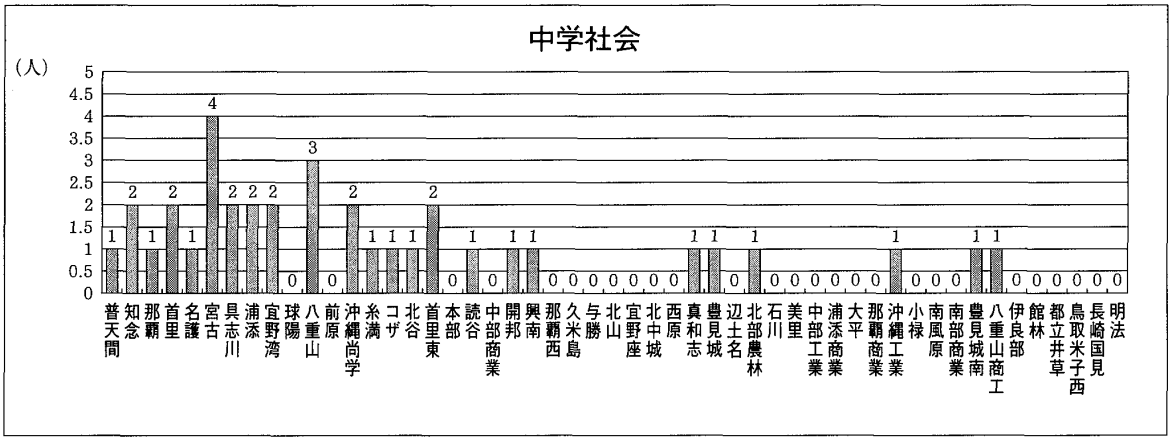
①全体

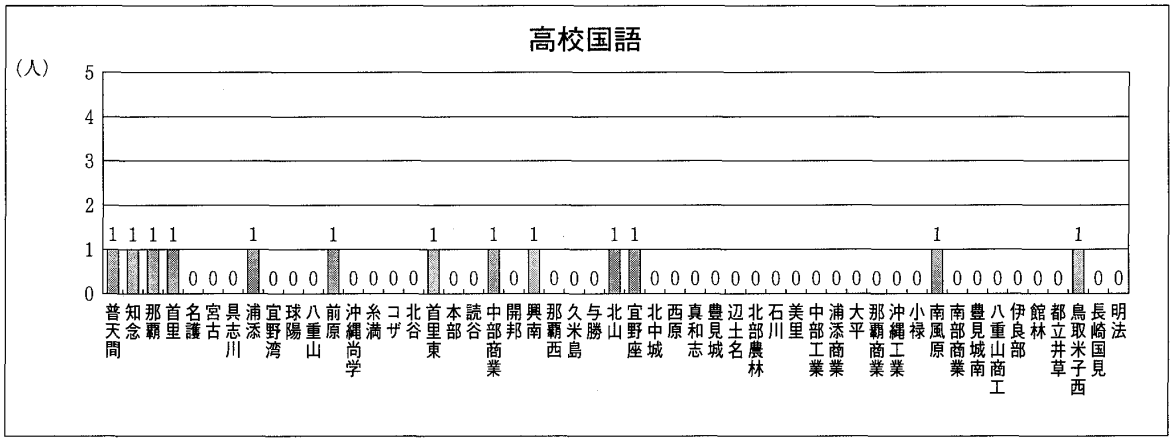


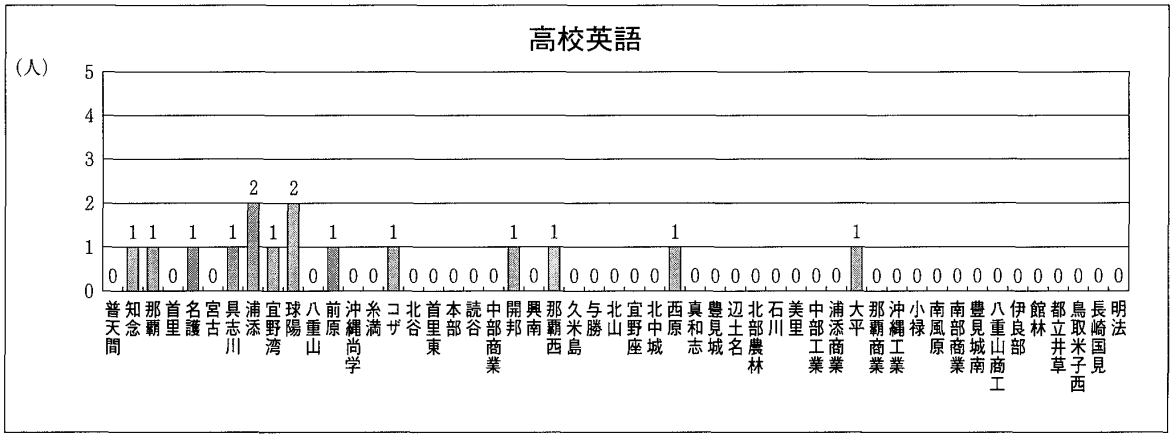

②勤務先・教科別

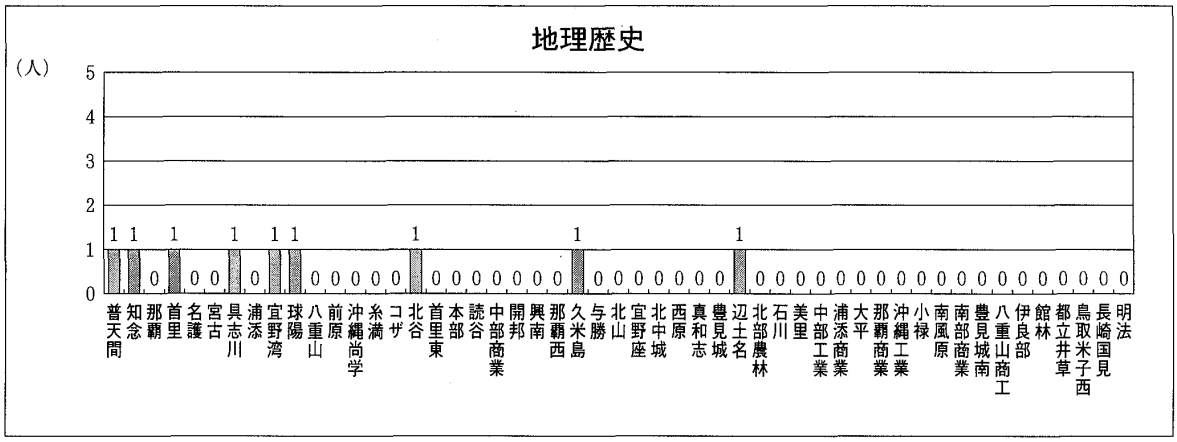


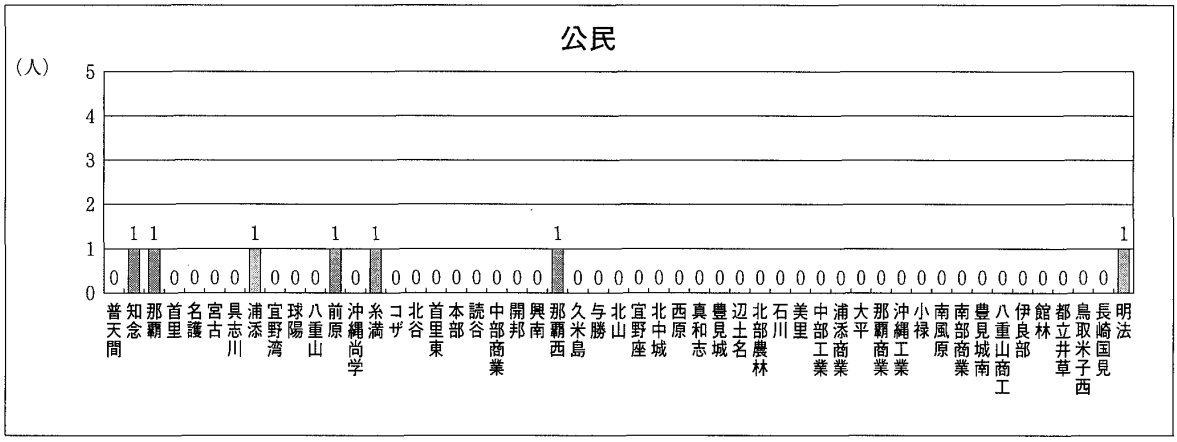

中学英語
(人)
5
4
3
2
1
0
普天間 知念 那覇 首里 名護 宮古 具志川 浦添 宜野湾 球陽 八重山 前原 沖縄尚学 糸満 コザ 北谷 首里東 本部 読谷 中部商業 開邦 興南 那覇西 久米島 与勝 北山 宜野座 北中城 西原 真和志 豊見城 辺土名 北部農林 石川 美里 中部工業 浦添商業 大平 那覇商業 沖縄工業 小禄 南風原 南部商業 豊見城南 八重山商工 伊良部 館林 都立井草 鳥取米子西 長崎国見 明法

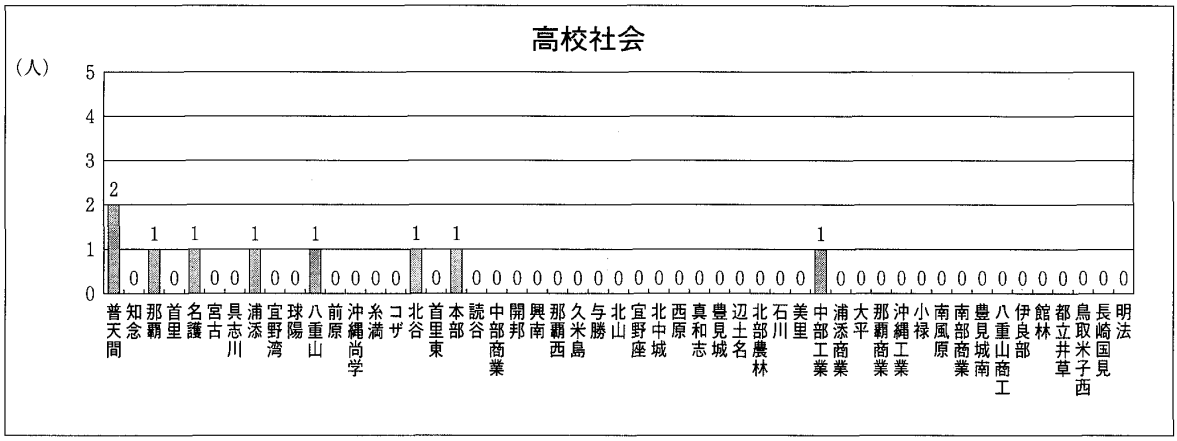

中学社会
(人)
5
4.5
4
3.5
3
2.5
2
1.5
1
0.5
0
普天間 知念 那覇 首里 名護 宮古 具志川 浦添 宜野湾 球陽 八重山 前原 沖縄尚学 糸満 コザ 北谷 首里東 本部 読谷 中部商業 開邦 興南 那覇西 久米島 与勝 北山 宜野座 北中城 西原 真和志 豊見城 辺土名 北部農林 石川 美里 中部工業 浦添商業 大平 那覇商業 沖縄工業 小禄 南風原 南部商業 豊見城南 八重山商工 伊良部 館林 都立井草 鳥取米子西 長崎国見 明法

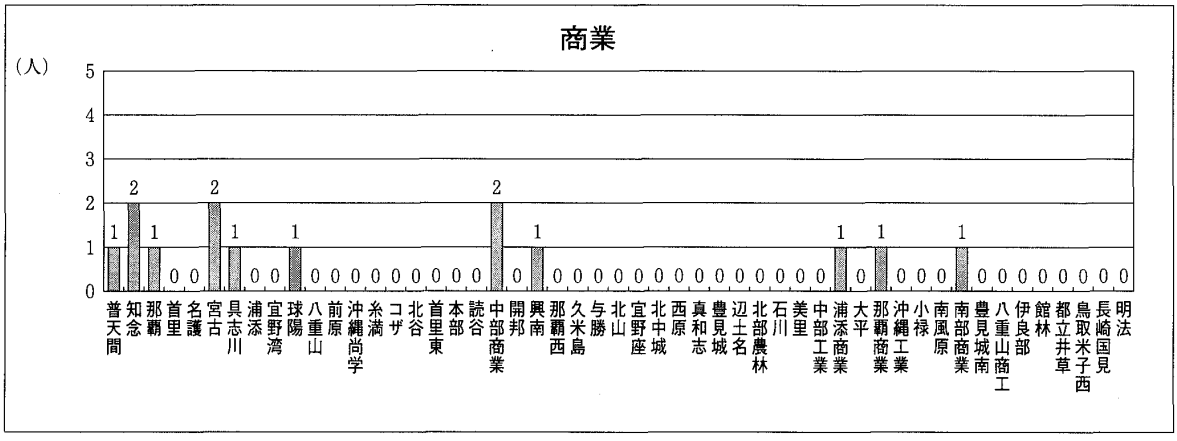

高校国語
(人)
5
4
3
2
1
0
普天間 知念 那覇 首里 名護 宮古 具志川 浦添 宜野湾 球陽 八重山 前原 沖縄尚学 糸満 コザ 北谷 首里東 本部 読谷 中部商業 開邦 興南 那覇西 久米島 与勝 北山 宜野座 北中城 西原 真和志 豊見城 辺土名 北部農林 石川 美里 中部工業 浦添商業 大平 那覇商業 沖縄工業 小禄 南風原 南部商業 豊見城南 八重山商工 伊良部 館林 都立井草 鳥取米子西 長崎国見 明法

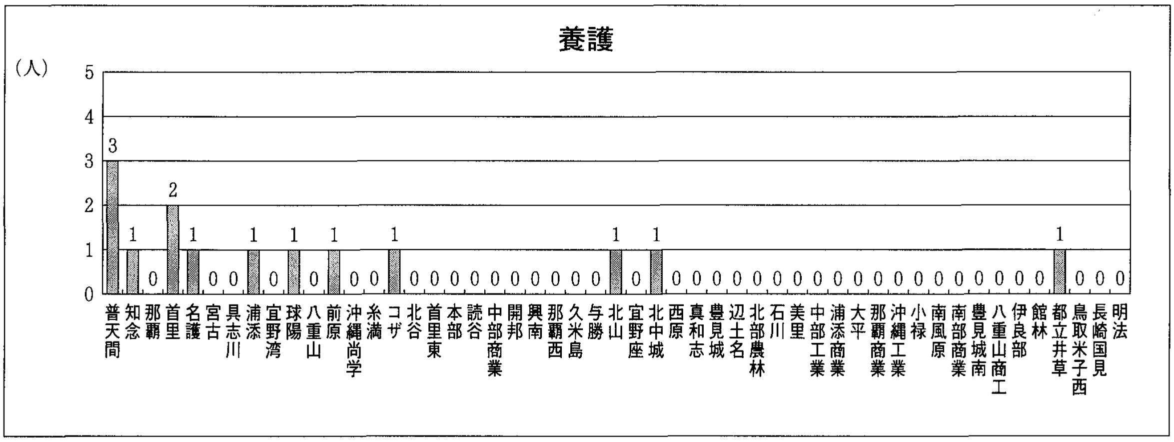

高校英語
(人)
5
4
3
2
1
0
普天間 知念 那覇 首里 名護 宮古 具志川 浦添 宜野湾 球陽 八重山 前原 沖縄尚学 糸満 コザ 北谷 首里東 本部 読谷 中部商業 開邦 興南 那覇西 久米島 与勝 北山 宜野座 北中城 西原 真和志 豊見城 辺土名 北部農林 石川 美里 中部工業 浦添商業 大平 那覇商業 沖縄工業 小禄 南風原 南部商業 豊見城南 八重山商工 伊良部 館林 都立井草 鳥取米子西 長崎国見 明法

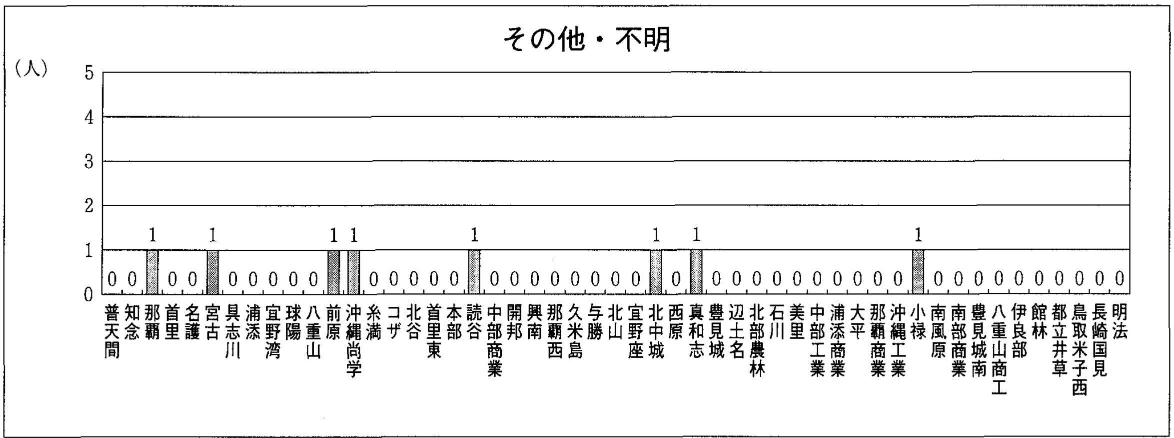

地理歴史
(人)
5
4
3
2
1
0
普天間 知念 那覇 首里 名護 宮古 具志川 浦添 宜野湾 球陽 八重山 前原 沖縄尚学 糸満 コザ 北谷 首里東 本部 読谷 中部商業 開邦 興南 那覇西 久米島 与勝 北山 宜野座 北中城 西原 真和志 豊見城 辺土名 北部農林 石川 美里 中部工業 浦添商業 大平 那覇商業 沖縄工業 小禄 南風原 南部商業 豊見城南 八重山商工 伊良部 館林 都立井草 鳥取米子西 長崎国見 明法


公民
(人)
5
4
3
2
1
0
普天間 知念 那覇 首里 名護 宮古 具志川 浦添 宜野湾 球陽 八重山 前原 沖縄尚学 糸満 コザ 北谷 首里東 本部 読谷 中部商業 開邦 興南 那覇西 久米島 与勝 北山 宜野座 北中城 西原 真和志 豊見城 辺土名 北部農林 石川 美里 中部工業 浦添商業 大平 那覇商業 沖縄工業 小禄 南風原 南部商業 豊見城南 八重山商工 伊良部 館林 都立井草 鳥取米子西 長崎国見 明法


高校社会
(人)
5
4
3
2
1
0
普天間 知念 那覇 首里 名護 宮古 具志川 浦添 宜野湾 球陽 八重山 前原 沖縄尚学 糸満 コザ 北谷 首里東 本部 読谷 中部商業 開邦 興南 那覇西 久米島 与勝 北山 宜野座 北中城 西原 真和志 豊見城 辺土名 北部農林 石川 美里 中部工業 浦添商業 大平 那覇商業 沖縄工業 小禄 南風原 南部商業 豊見城南 八重山商工 伊良部 館林 都立井草 鳥取米子西 長崎国見 明法


商業
(人)
5
4
3
2
1
0
普天間 知念 那覇 首里 名護 宮古 具志川 浦添 宜野湾 球陽 八重山 前原 沖縄尚学 糸満 コザ 北谷 首里東 本部 読谷 中部商業 開邦 興南 那覇西 久米島 与勝 北山 宜野座 北中城 西原 真和志 豊見城 辺土名 北部農林 石川 美里 中部工業 浦添商業 大平 那覇商業 沖縄工業 小禄 南風原 南部商業 豊見城南 八重山商工 伊良部 館林 都立井草 鳥取米子西 長崎国見 明法




【考察３】

「高校力」という言葉がある。名門高校出身者の場合、大学での人脈より高校での人脈が就職や仕事・ビジネスでの成功の鍵を握っているといった意味の言葉である（「大学より高校力」『AERA　アエラ』No.59、2005年11月７日。）。しかし、「高校力」が人脈だけではなく高校で形成された諸能力をも指すというのも一面の真実ではないだろうか。そうした関心から考察する。

本来は母数となる入学者総数を考慮しなければならないが、おおむね入学者数の多い高校の出身者が教員採用者としても多い傾向となっている。つまり、特定の高校出身者が相対的に突出して教員になっている状況にはない。裏を返せば、「高校力」に依存することのない「大学力」とでも言えるようなものが本学には健在していることが示されていると言えよう。

### （４）沖縄国際大学教職課程への意見・要望（自由記述）

沖縄国際大学（沖国大）教職課程への意見・要望として77人から記述回答があった。記述内容は後掲の通りであった。

【考察４】

記述内容の最大公約数といえる典型的な記述は次の記述である。

「在学期間中、教職課程においてきめ細かなご指導をして頂き、念願の教職に就くことができました。大学で学んだことが現在仕事を行う上での基盤になっておりとても感謝しております。沖国大からの教育実習生は学校現場での評価が高く、卒業生としてうれしい限りです。今後も知識や技能だけでなく、社会的なマナーを身につける為のご指導をお願い致します。」（中英32歳）

この例が示すように、記述内容はイ．本学に在学し学んだ本学教職課程への謝辞、ロ．勤務校にやって来る本学教育実習生に対する評価、ハ．本学教職課程に対する要望、その他ロとの関連でニ．本学出身同僚教員に対する評価、ハとの関連でホ．本学教職課程への期待と激励の５つに類型化することができる。

77人の記述内容をこの５つに分類すると105件の記述内容となった。以下、その概要と考察結果である。

①「沖国大教職課程への謝辞」（27件）

教職課程は在学中は厳しく感じたが現場に出て有意義だったと実感している。教育実習に向けての心構えの指導がその後の教員生活でも役に立っている。こうした声が多数寄せられた。

本学の教員候補者選考試験２次試験対策講座はかねてより定評のあるものであったが、そのことを指摘し、今後の継続を期待する記述が７人もからあった。

筆者が感銘を受けた記述に次のようなものがあった。「先生方の学生を大切にする気持ちがあたたかく私たちを勇気づけてくれ、教師になった今私も同じように生徒を大切にしていこうと日々頑張っています。」（中英39歳）

これは教員養成における「善の連鎖」とでも呼ぶべきものの存在を指摘したものとして興味深い。本学教職課程には「学生の利益となるのであれば、教員が進んで泥をかぶる」というモットーが存在している（『沖縄国際大学30年史　本編』425頁）。それは「顧客としての学生へのサービスを最優先すべきだという皮相な理由からではなくして、学生への接し方が彼らが教員となったとき自ずと生徒への接し方に反映されると、深謀遠慮するからである。」と説明されている。回答者のその記述ははからずもこの「深謀遠慮」が正しく実を結んでいることの証明と言ってよいのかもしれない。

②「沖国大からの教育実習生について」（21件）

本学からの教育実習生についての肯定的評価が15件あり、否定的評価６件を上まわった。

肯定的評価は、他大学からの実習生に比べて評判がいい、意欲がある、意識が高い、事前指導（服装、言葉遣い、指導案作成、生徒や先生方との接し方や態度）が徹底している、というものである。教育実習校訪問や教育実習校との懇談会でこれまで聞かれた本学教育実習生の評価に対応するものとなっている。

一方で否定的意見は、最近の傾向として、沖国大生ということの自信が過信につながって

いるようで、謙虚さを欠いたり、優秀と思いこんだりしている者がいることを指摘している。指摘する教員は国語教諭に多く見られた。一部の実習生についてではあるが、国語を中心に今後検討しなければならない課題が提起されている可能性がある。

**③「沖国大出身の同僚教員について」（８件）**

本学出身の同僚教員についてはすべて肯定的評価であった。多数の同窓が同僚となっていることは心強く、誇らしくもあるし、頼もしくもあるという意見である。本学出身であるということで周囲から評価されるケースもあるという記述もあった。本学出身というネームバリューもしくはブランドが学校現場で形成されつつあるとも読めなくはない記述である。

本学は即戦力のある使える教員を育成している大学という評価をされていることも読み取れた。

**④「沖国大教職課程への期待と激励」（24件）**

上述した教職課程への謝辞、本学教育実習生や本学出身同僚教員に対する肯定的評価に対応する形で、本学教職課程について現状の指導の継続や指導水準の維持ならびに一層の充実と発展を期待する記述が殆どを占めた。そのためには協力を惜しまないという記述も見られた。

**⑤「沖国大教職課程への要望」（25件）**

教科教育法ではクラスの状況に応じて指導法を変えることを教えてほしいという要望があった。学校現場の臨場感に乏しい大学には難しい注文であるが、教育実習終了者からよく聞く注文と呼応している。

教職課程の教育課程が教壇実習に焦点化されていることへの問題意識からか、生徒指導・理解に関する教育課程の充実や校務分掌に関する講義を求める声があった。

高校国語教諭からは本学出身の国語の高校教員が少ないことから、専門教科の力量形成に原因があるのではないかという指摘があった。

教職として当然必要なことであるが、教科指導・生活指導・学級経営のバックボーンとなる人間観や社会観を広げ、深めることの大切さを指摘する記述があった。

本学出身者では必ずしもないが、若い世代の教員が責任感や使命感に乏しいことや、「指示待ち教員」になっていること、先輩の助言を素直に聞かなくなっていることも指摘されている。

制度に関わる要望として、社会教育主事資格課程の復活、特別支援学校教諭免許状取得課程の新設、大学院での教科指導法の学習機会の提供などを望む記述があった。

条件整備のこととして、普通高校出身者のために商業科の教科書を図書館にそろえてほしいという声があった。

年に一度の卒業生相互の情報交換会・交流会の設定や卒業生名簿の作成を求める、卒業生のネットワーク構築を願う意見も寄せられた。

［自由記述の内容］

＊数の多い順、勤務先・教科別順、年齢順に配列した。

①「沖国大教職課程への謝辞」(27件)

・教員採用試験２次試験対策講座ではお世話になりました。大変参考になりました。(中国32歳、中国36歳、中英35歳、中社37歳、中社38歳、中数33歳、公民36歳)

・教科教育法が充実していて採用されても困りませんでした。(中国32歳)

・諸先生方のわかりやすい講義がよかったと思います。(中国32歳)

・沖国卒業生として誇りを持って過ごしています。(中国32歳、中国30歳)

・大学時代に教えていただいたことが日々の仕事の励みになっている。(中国36歳)

・大学での学びが力になっています。(中英32歳、養英39歳)

・教職課程は当時は大変厳しく感じましたが現場に出て有意義だったと実感しています。知識だけでなく人間を相手とする教員としての大切なことを多く学び合えたと思います。(中英32歳)

・大学で学んだことが現在の基盤になっています。(中英32歳)

・先生方の学生を大切にする気持ちがあたたかく私たちを勇気づけてくれ、教師になった今私も同じように生徒を大切にしていこうと日々頑張っています。(中英39歳)

・心理学、文学等を含め大学時代の講義が生徒理解に役だっています。(中英39歳)

・教科教育法では教授法以外にも企画力、人とのコミュニケーションのとり方、学ぶ楽しさ等多くのことを学んだ。(中英39歳)

・在学中に非常に手厚い指導をしていただいて感謝しています。(中社33歳、高英43歳)

・教育実習に向けての心構えなどその後の教員生活でも役に立っています。(中社37歳)

・教養ゼミでのヤンバル・西表その他自然・ボランティアなどの体験活動が視野を広げてくれました。(中社37歳)

・２年次から実質スタートしている教科教育法で得たことは現場で即役立つだけでなく、全体を見渡す目を養ってくれ、校務分掌においても即戦力になるという評価をいただいた。(高国36歳)

・ぞくぞくと後輩が教員になることを誇りに思います。(地歴34歳)

・沖国大出身の教員も増えているようで、同窓生としても大変よろこんでいます。(高社57歳)

・大事なことはどうしたら採用されるかではなく採用後教師としてどのように生きていけるのかだと思いますが、その面では沖国の教職課程は非常に意義深いものでしたと今になって実感しています。(商27歳)

②「沖国大からの教育実習生について」(21件)

・沖国の実習生は毎年評判がよい。うれしい。(高社39歳、地歴32歳、高国32歳、高英31歳、中社38歳、中英32歳)

・大変意欲があり誇らしく思う。(中国35歳、中英32歳)

・沖国からの実習生はひときわ目立っている。(中英36歳、高社38歳)

・予定変更があっても臨機応変に対応できるので安心。(中国35歳)

・沖国生はしっかりしているという話が定着しつつあるように思います。(中国42歳)

・他大学生より意識が高く好評です。(高英40歳)

・事前指導が他大学に比べ徹底されている。(公民34歳)

・しっかりと大学で勉強してきているということを感じます（服装、言葉遣い、指導案作成、生徒や先生方との接し方や態度)。(商31歳)

・最近の実習生の評判の悪さが卒業生として気になります。一部の学生でしょうが、名を汚さないようにと願うばかりです。(中国30歳)

・意識、授業準備、挨拶等で劣った面が見られる実習生があり残念だった。(中国31歳)

・自らも学ぶ姿勢が必要。社会の一員として学ぶ場でもあってほしい。(中国42歳)

・最近実習生が朝の掃除をしなくなった。挨拶も受け身的。部活にも行かない。どうしたのでしょうか？（中英)

・最近沖国生の教育実習メンバーの質が落ちているという話をよく耳にします。沖国大の教職課程を受けてい

るから優秀なんだと思いこんでいる学生もいるようです。教材研究、生徒との接し方、実習中のマナーを徹底指導してもらいたい。(高国30歳)
・厳しい事前指導に自信を持つのはよいが、最近謙虚さと素直さが欠けている。(地歴34歳)
③「沖国大出身の同僚教員について」(8件)
・沖国出身の教員が大活躍していることを大変誇らしく思います。頼もしく思います。(中社30歳、養護48歳)
・沖国大卒業の先生方は現場では即戦力としてすばらしい教育活動を実践しています。(中国31歳)
・多数の沖国大出身者がいて心強い。(中社42歳)
・臨任で5高校回りましたがどの学校でも「沖国卒業生はしっかり教育されている」と好評でした。(高国27歳)
・沖国出身ということで評価も結構いいです。(養国29歳)
・沖国大の卒業生はとても真面目で生徒一人ひとりを大切にし、きめ細やかな対応をしているように感じます。(高英43歳)
・現場で「使える教員」を多く輩出している大学として評価されているようです。(高社37歳)
④「沖国大教職課程への期待と激励」(24件)
・今後も発展を祈ります。(中英48歳、高英40歳、中社36歳、英32歳、養国31歳)
・今後とも充実・強化に励んでください。(中英36歳、中英32歳、公民34歳、高社37歳、商31歳)
・今後とも質の高い教員の養成を期待しています。(中英32歳、高国35歳、高英28歳、高英34歳、養護48歳)
・採用試験合格者をこれからも数多く出すよう充実をお願いします。(中国34歳、中社32歳、中社33歳)
・教員採用試験2次試験対策講座は今後も続けてください。(中社38歳、中数33歳)
・協力できることは何でもお手伝いします。(中国28歳)
・今後とも即戦力として活躍できる教員の輩出を期待しています。(中社30歳)
・これからも教員・職員の充実した指導とサービスを提供してください。(中社37歳)
・実習生の評価が高いのでこれまで通り指導・サポートしてください。(高社39歳)
⑤「沖国大教職課程への要望」(25件)
・若い教員が服装面で注意を受けるようになっている。(中国33歳)
・教師には人間としての総合力が必要です。若いうちにこそ厳しく指導してください。(中国53歳)
・現場は前向きに忍耐強く頑張れる人材を望んでいます。(中英32歳)
・子どもと向き合う授業を第一と考えて指導いただきたい。教科の力があると教員としての自信をいっそう持つことができると思われる。(中社36歳)
・どのクラスも同じ指導法では成り立たない。クラスの状況に応じて指導法を変えるという考えを教えてほしい。(高国31歳)
・生徒や教員とのつきあい方を実習前に指導してほしい。(高国31歳)
・指導法だけでなく人間としてたくましくやる気のある後輩の指導・育成を望む。(高国31歳)
・現職教員と在校生の日常的交流ができればいいと思います。(高国32歳)
・会員名簿があれば横のつながりも持てるのでは。(高国32歳)
・生徒を母校に送り出すようになったので大学にはますます頑張ってほしい。(高国35歳)
・専門教科についてもっと勉強した方がよい。そのため高校での実習生は自信なさげである。高校では沖国出身教員が少ないのがさみしい。資質や情熱では他大学出身者より上回っているだけに残念である。(高国38歳)
・教科指導、生活指導、学級経営は大切であるが、そのバックボーンとなる人間観や社会観を広げ深めることが大切である。(高国・養護58歳)
・尊敬できる教授の下、柔軟かつ情熱を持った後輩を多く育ててほしい。(高英31歳)
・新しい指導方法について学びたい。できれば母校で学びたい。(高英39歳)
・生徒指導や校務分掌に関する講義が少ない。現場の中身に関した講義が増えるとよい。(英27歳)
・年に一度情報交換会(楽しく集まれる感じの交流会)を行い、ネットワークを深めてもいいのではないでしょうか。(地歴32歳)

・模擬授業は実際しなくても数多く指導案を作るとよい。(地歴35歳)
・４観点を入れた指導案。(地歴35歳)
・人を育てる仕事である以上、教科だけでなく生徒理解・指導に関する教育課程の充実をして下さい。(高社35歳)
・若い教員は生徒たちに流されやすい。生徒の立場に立って考えてあげることはとても大切だが、教師としての本分・考え方もしっかりもってもらいたい。(高社38歳)
・普通高校出身者のために商業科の教科書を図書館にそろえてほしい。(商31歳)
・商業高校では１人で３～５科目担当するのでその対応力養成をして下さい。(商36歳)
・新米教員の責任感・使命感の乏しさを感じる。指示待ち教員も増えてきている。先輩の話を聞く姿勢からがないようだ。(商36歳)
・特別支援教育の免許に要する単位取得ができるようとりくみをしてほしい。(養護58歳)
・社会教育主事資格が必要な時代になりつつあるようだ。講座の復活を要望する。(小44歳)

## ４．まとめ

### （１）本学教職課程の「教育力」の特徴と傾向性について

本学卒業教員の生徒会指導と生徒指導・生活指導の校務分掌の頻度が高いという結果は、本学卒業教員についての「生徒指導・生活指導のできる教員が育っている」「子どもの自立の過程に寄り添う校務にたずさわる教員が多いようである」という評判に照応している。

生徒会指導担当経験者が群を抜いて多いことから、コミュニケーション力や調整力、生徒を動かす力量を有し、生徒や同僚から信頼される教員が多く育っていると言える。

卒業後採用されるまでの年数について、教職に関する科目の「履修階梯」を定めた1990年度以降の入学生の平均はそれ以前の入学生より１年余り短くなっている。実際の採用者数も1990年度以降の入学生が大きく上回っており、この1990年度を境に質量ともに本学教職課程は著しい成果をあげてきている。

出身高校に関する傾向性は特に認められなかった。「高校力」に依存しない大学としての教育力を本学は有していると言えるかもしれない。

### （２）各教科の「教育力」の特徴と傾向性ならびに課題

校務分掌で国語教員は図書担当、社会科教員は人権教育担当が多かった。教科の性格上これらの担当機会が多いのであれば、この結果はこれら教科志望学生の今後の指導課題を示唆している。

教員採用については国語と英語が卒業後比較的早期に採用されている。競争倍率の関係もあるが、社会科関係に比べて早い。しかしそうであるだけに、国語と英語の高校での採用に年数がかかっている点が目立つ。自由記述での指摘も考慮すると、とくに国語では高校生を指導できる教科専門教養の形成が課題となっている可能性がある。

### （３）本学教職課程の課題とその克服の方向性

自由記述で本学教職課程への注文があった。卒業生教員からの助言は一般に厳しくもあるが親身でもある。こうした注文を的確な助言として受け止め、卒業生教員の活力を教職課程で生かしていくことが今後求められよう。卒業生は学外にありながら有力な「学内資産」で

ある。

本学の教育実習生には以前より定評があったが、卒業生教員についても同じ評価があることが自由記述の中でわかった。しかし、一方で本学実習生が自信過剰になっている傾向があるとの指摘もあった。今後の学生指導の課題としなければならない。

自由記述の中に印象に残った言葉があった。「先生方の学生を大切にする気持ちがあたたかく私たちを勇気づけてくれ、教師になった今私も同じように生徒を大切にしていこうと日々頑張っています。」という言葉である。この言葉は本学教職課程に送られた至高の応援メッセージである。今後もこの言葉の通りであることが望まれる。

**資料：アンケート依頼文書、アンケート記入用紙**

沖国大教発第　　号
平成 18 年 8 月　　日

沖縄国際大学卒業生教育職員各位

沖 縄 国 際 大 学
学長　渡久地朝明
（公印省略）

残暑の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

ご案内のとおり、皆様の母校である沖縄国際大学の教職課程が文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色ＧＰ）」に採択されました（事業推進責任者　総合文化学部教授　三村和則）。本プログラムの補助事業の一環として、本学教職課程のいっそうの充実を目的に、教育職員採用後皆様がどのような校務分掌を中心にご活躍されたかについて教えていただきたいと考えています。

当プログラムの申請書には、本学教職課程の取組の有効性のひとつとして「生徒指導・生活指導のできる教員が育っている」ことを掲げ、「これまで900名近い卒業生が実際に教員として採用されている。学校長の評価は、素直であり、生徒指導・生活指導ができるということである。『生徒指導主任』、『生徒相談係』、『中途退学対策係』といった、子どもの自立の過程に寄り添う職務にたずさわる教員が多いようである。」と書かせていただきました。
この内容は、教育実習校との情報交換等から推察されるものとして挙げさせていただきましたが、皆様の協力を得てこの点を検証する一定の社会的責務を負っているものと考えます。

また、文部科学省が実施した本学への教員免許課程大学実地視察（2004年11月）の際、多数の教員を輩出する点が高く評価された一方で、今後は更なる質の向上を期待するという趣旨で、卒業生の校務分掌等の特徴を把握してはどうかという示唆を受けております。

つきましては、別紙のとおり皆様に「沖縄国際大学卒業生教育職員アンケート」を送付いたしますので、ご回答にご協力いただきますようお願い申し上げます。

先生方のご多忙ぶりは十分に承知しているつもりでございます。校務分掌の把握には時間がかかるかと推察いたします。この機会に来し方を振り返っていただくこととなれば私たちとしても幸いに存じます。何卒ご協力賜りますようお願いいたします。

ご回答の送付につきましては同封の返信用封筒をお使いください。勝手ではございますが、8月31日（木）までに投函していただければ幸甚に存じます。

なお、お答え頂いた内容は統計的に扱われ個人が特定されることはございません。また、個人情報は厳正に管理しこのアンケート調査のみを目的として活用させて頂きます。

末筆ながら皆様のご健康とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

問い合わせ先：沖縄国際大学　教務部教務課　特色ＧＰ担当
ＴＥＬ：098-892-1111　内線（3103）

## 沖縄国際大学卒業生教育職員アンケート記入用紙

**1．出身校等についてご記入ください。**

**・年齢〔　　歳〕　　・性別〔　男性　・　女性　〕**

**・出身高校名〔　　高校〕　・卒業学科・年度〔　　学科　　年度卒業〕**

**・採用年度〔　　年度〕　・取得免許教科〔　　〕**

**2．採用１年目からの勤務先と職務について例を参考にご記入ください。**

**（臨時的任用は除きます。）**

**担任と校務分掌については選択肢から当てはまるものすべてについて空欄に年数をお書きください。**

| 勤務校・事務所 | 在勤年数 | 担任 | 校務分掌等 |
|---|---|---|---|
| （例）<br>○○○立<br>○○中学校 | （ 3 ）<br>年間 | 担任<br>（ 2 ）<br>副担任<br>（ 1 ） | ア.総務・庶務（　）イ.教務（　）ウ.生徒指導・生活指導（ 2 ）エ.教育相談（　）オ.生徒会指導（　）カ.進路指導（　）<br>キ.学習指導（　）ク.保健（　）ケ.図書（　）<br>コ.人権教育（　）サ.情報システム（ 2 ）シ.事務（　）<br>ス.環境整備（　）セ.教頭（　）ソ.校長（　）タ.その他（　） |
| | （　）<br>年間 | 担任<br>（　）<br>副担任<br>（　） | ア.総務・庶務（　）イ.教務（　）ウ.生徒指導・生活指導（　）エ.教育相談（　）オ.生徒会指導（　）カ.進路指導（　）<br>キ.学習指導（　）ク.保健（　）ケ.図書（　）<br>コ.人権教育（　）サ.情報システム（　）シ.事務（　）<br>ス.環境整備（　）セ.教頭（　）ソ.校長（　）タ.その他（　） |

| 勤務校・事務所 | 在勤年数 | 担任 | 校務分掌等 |
|---|---|---|---|
| | （　）<br>年間 | 担任<br>（　）<br>副担任<br>（　） | ア.総務・庶務（　）イ.教務（　）ウ.生徒指導・生活指導（　）エ.教育相談（　）オ.生徒会指導（　）カ.進路指導（　）<br>キ.学習指導（　）ク.保健（　）ケ.図書（　）<br>コ.人権教育（　）サ.情報システム（　）シ.事務（　）<br>ス.環境整備（　）セ.教頭（　）ソ.校長（　）タ.その他（　） |
| | （　）<br>年間 | 担任<br>（　）<br>副担任<br>（　） | ア.総務・庶務（　）イ.教務（　）ウ.生徒指導・生活指導（　）エ.教育相談（　）オ.生徒会指導（　）カ.進路指導（　）<br>キ.学習指導（　）ク.保健（　）ケ.図書（　）<br>コ.人権教育（　）サ.情報システム（　）シ.事務（　）<br>ス.環境整備（　）セ.教頭（　）ソ.校長（　）タ.その他（　） |
| | （　）<br>年間 | 担任<br>（　）<br>副担任<br>（　） | ア.総務・庶務（　）イ.教務（　）ウ.生徒指導・生活指導（　）エ.教育相談（　）オ.生徒会指導（　）カ.進路指導（　）<br>キ.学習指導（　）ク.保健（　）ケ.図書（　）<br>コ.人権教育（　）サ.情報システム（　）シ.事務（　）<br>ス.環境整備（　）セ.教頭（　）ソ.校長（　）タ.その他（　） |
| | （　）<br>年間 | 担任<br>（　）<br>副担任<br>（　） | ア.総務・庶務（　）イ.教務（　）ウ.生徒指導・生活指導（　）エ.教育相談（　）オ.生徒会指導（　）カ.進路指導（　）<br>キ.学習指導（　）ク.保健（　）ケ.図書（　）<br>コ.人権教育（　）サ.情報システム（　）シ.事務（　）<br>ス.環境整備（　）セ.教頭（　）ソ.校長（　）タ.その他（　） |
| | （　）<br>年間 | 担任<br>（　）<br>副担任<br>（　） | ア.総務・庶務（　）イ.教務（　）ウ.生徒指導・生活指導（　）エ.教育相談（　）オ.生徒会指導（　）カ.進路指導（　）<br>キ.学習指導（　）ク.保健（　）ケ.図書（　）<br>コ.人権教育（　）サ.情報システム（　）シ.事務（　）<br>ス.環境整備（　）セ.教頭（　）ソ.校長（　）タ.その他（　） |
| | （　）<br>年間 | 担任<br>（　）<br>副担任<br>（　） | ア.総務・庶務（　）イ.教務（　）ウ.生徒指導・生活指導（　）エ.教育相談（　）オ.生徒会指導（　）カ.進路指導（　）<br>キ.学習指導（　）ク.保健（　）ケ.図書（　）<br>コ.人権教育（　）サ.情報システム（　）シ.事務（　）<br>ス.環境整備（　）セ.教頭（　）ソ.校長（　）タ.その他（　） |

足りない方は、裏面をご利用ください。

3．沖縄国際大学教職課程へのご意見、ご要望などありましたらご自由にお書きください。

---

---

---

---

---

---

---

ご協力ありがとうございました。

＊　ご回答は同封の返信用封筒を用いて、8月31日(木)までにご投函くだされば幸いです。

足りない場合は、この面をお使いください。

| 勤務校・事務所 | 在勤年数 | 担任 | 校務分掌等 |
|---|---|---|---|
| | （　）年間 | 担任（　）<br>副担任（　） | ア.総務・庶務（　）イ.教務（　）ウ.生徒指導・生活指導（　）エ.教育相談（　）オ.生徒会指導（　）カ.進路指導（　）<br>キ.学習指導（　）ク.保健（　）ケ.図書（　）<br>コ.人権教育（　）サ.情報システム（　）シ.事務（　）<br>ス.環境整備（　）セ.教頭（　）ソ.校長（　）タ.その他（　） |
| | （　）年間 | 担任（　）<br>副担任（　） | ア.総務・庶務（　）イ.教務（　）ウ.生徒指導・生活指導（　）エ.教育相談（　）オ.生徒会指導（　）カ.進路指導（　）<br>キ.学習指導（　）ク.保健（　）ケ.図書（　）<br>コ.人権教育（　）サ.情報システム（　）シ.事務（　）<br>ス.環境整備（　）セ.教頭（　）ソ.校長（　）タ.その他（　） |
| | （　）年間 | 担任（　）<br>副担任（　） | ア.総務・庶務（　）イ.教務（　）ウ.生徒指導・生活指導（　）エ.教育相談（　）オ.生徒会指導（　）カ.進路指導（　）<br>キ.学習指導（　）ク.保健（　）ケ.図書（　）<br>コ.人権教育（　）サ.情報システム（　）シ.事務（　）<br>ス.環境整備（　）セ.教頭（　）ソ.校長（　）タ.その他（　） |
| | （　）年間 | 担任（　）<br>副担任（　） | ア.総務・庶務（　）イ.教務（　）ウ.生徒指導・生活指導（　）エ.教育相談（　）オ.生徒会指導（　）カ.進路指導（　）<br>キ.学習指導（　）ク.保健（　）ケ.図書（　）<br>コ.人権教育（　）サ.情報システム（　）シ.事務（　）<br>ス.環境整備（　）セ.教頭（　）ソ.校長（　）タ.その他（　） |

【付記】

このアンケートの集計と作図表作業には「特色GP」事業推進費による雇用職員の補助を得た。記して感謝する。

# Questionnaire Survey of the Teachers Graduated from OIU
# -Input and Problem of Teacher Training Course of OIU-

Kazunori Mimura

Abstract

We carry out a survey on 718 high school teachers graduated from Okinawa International University. 182 (about25%) teachers replied.

The questions are about

1.school affairs taken charge of

2.the number of years after graduation until becoming a regular employee as a teacher

3.the alma mater

4.suggestions and demands to the teacher training course of OIU (free mentions) .

This survey has revealed the facts as follows.

1.many teachers from OIU take charge of such school affairs as student council and student guidance

2.the teachers entered after 1990 school year have become regular employees in fewer years than the teachers before 1990,when the prerequisite subjects for the next was introduced in the curriculum system of the requisite subjects for the teacher training course of OIU

3.the graduates from the specially senior high schools don't occupied the special position in the share of teachers

4.we must develop the high level expert knowledge which make the students senior high school teachers

5.some student teachers from OIU are overconfident because of the students of OIU.

Key Words: teacher training course, graduates, school affairs, alma mater